

2 3 4 5 6 7 8 9 9.4^m 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9.4^m 30 1 2 3 4 5 6 7

H600
S 1
7

司法省第四處務年報

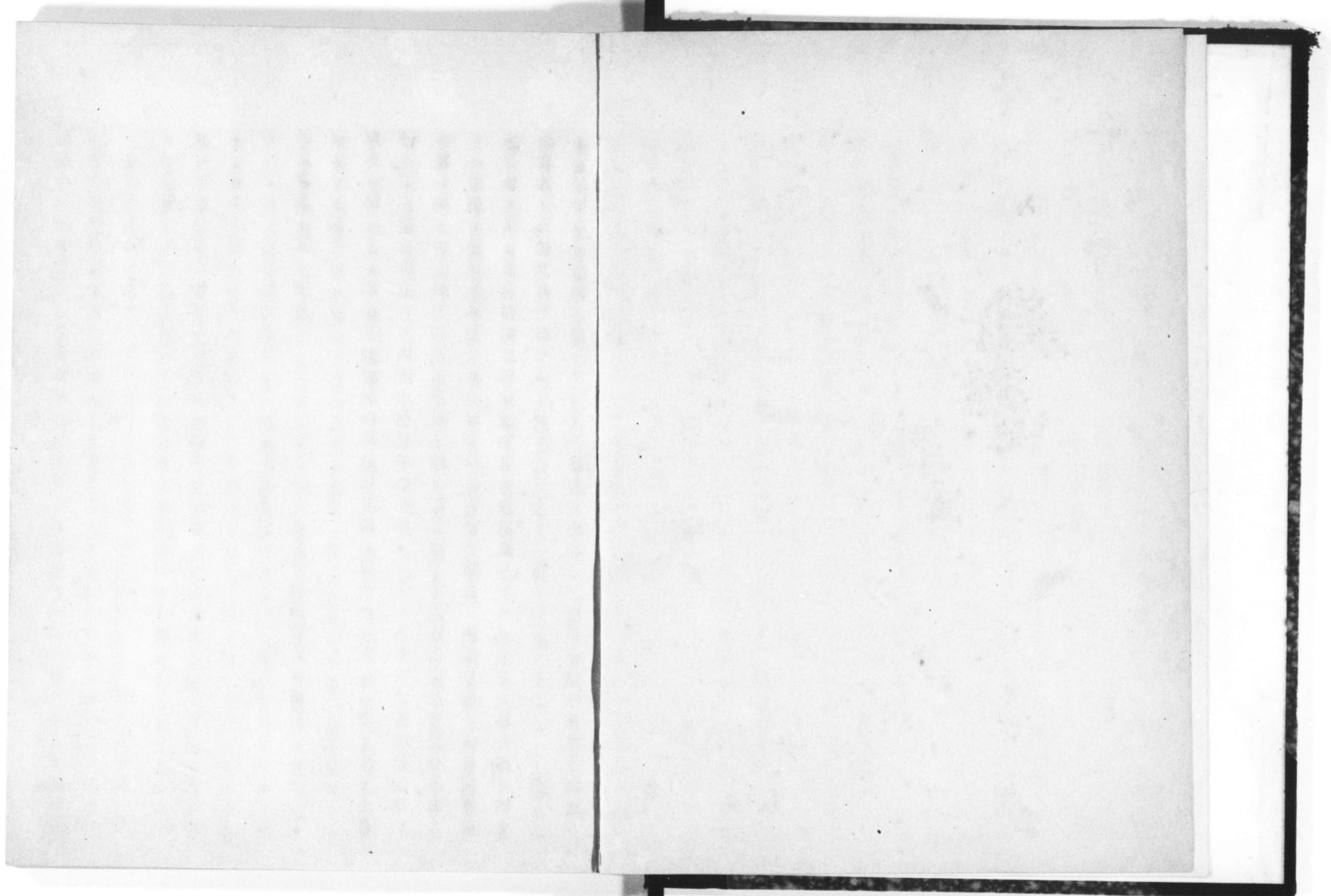
第十一年度



昭和13年
10月8日發本

司法研究室

H6
S
7



本省年報分テ之ヲ三編トナシ第一編處務概畧第二編民事綜計表第三編刑事
綜計表トス各其功ヲ竣フルヲ竣テ合テ之ヲ一冊ニ纏綴シ上奏セント雖モ今
之ヲ考フルニ其材料徵收編纂順序各遲速難易アリテ到底其成功ノ期ヲ同フ
スルヲ得ス然ルヲ強テ之ヲ合纂スルキハ却テ事務ノ淹滯ヲ醸生セン因テ更
ニ第一編ヲ司法省第四處務年報ト稱シ第二編ヲ司法省第四民事統計年報ト
稱シ第三編ヲ司法省第四刑事統計年報ト稱セントス今幸ニ處務年報編纂ノ
功成ル即チ之ヲ申奏ス此他民事統計年報ノ如キモ亦成ルニ隨テ之ヲ上呈
セントス謹奏

明治十五年九月

司法卿大木喬任

明治十五年四月
東京
大木
...

凡例

- 一 本書ハ會計年度ニ從テ編纂ス
- 一 表紀ニ係ル者ハ數字ヲ以テ之ヲ記シ、ヲ加ヘテ以テ千位ヲ分ツ而シテ金
ハ畫線ヲ引テ殊ニ圓位ヲ示スノ外ハ亦之ヲ圓位ニ附ス其○ヲ附スル者ハ
零數ナリ

審判
一 裁判所管轄附廢置
一 法律
一 法學專門生徒
一 恩赦特典
一 國事犯及人民ヨリ官府ニ對スル訴訟
一 華族及奏任官犯罪處分附喚問
一 經費附土木
一 書籍
一 代言人

司法省第四處務年報目次

法律

裁判所管轄附廢置

法學專門生徒

恩赦特典

國事犯及人民ヨリ官府ニ對スル訴訟

華族及奏任官犯罪處分附喚問

經費附土木

書籍

代言人

司法省第四處務年報

法律

明治十一年六月不動産ノ書入質入ニ戸長誤テ重複ノ公證ヲ爲スト雖其損害ノ要償ニ付テハ固ヨリ其責ニ任セサルヲ至當トセンコトヲ上申ス同年七月裁可ヲ得タリ

同月身代限財産中租税徴収及裁判入費取立方順序ノコトヲ上申ス是レ昨十年第七十九號ヲ以テ租税徴収ノコトヲ布告セラレ尋テ本年大藏省乙第七號ヲ以テ右ノ處分方法ヲ達セリ該達ニ依ルキハ租税未納者他ノ負債上ヨリ身代限トナリ揭示満期後ト雖モ未タ其財産ヲ糶賣セサルキハ地方官ヨリ照會ニ應シ差押タル財産ノ全部或ハ其一部ヲ送付セサルヲ得ス然ルニ若シ租税ヲ徴収シテ剩餘アラサルキハ先取ノ特權アル裁判入費ハ遂ニ賠償スルニ由ナキヲ以テナリ同年七月先ツ租税ヲ徴収シテ剩餘アラハ次ニ裁判入費ヲ取立ツヘシトノ裁令ヲ得タリ
同年七月等内外官吏又ハ巡查等職務上證人トシテ法廷ニ出席スル時席次ノコトヲ上申ス同年八月適宜被告人ト席次ヲ別異スヘシトノ裁令ヲ得タリ

H500
S 1
7

同月鹿兒島裁判所管内大島、徳ノ島、喜界島、沖永良部島、輿論島ニ限り地方廳ニ同ク管外ニ準シ旅費ヲ支給セシコトヲ上申ス同月裁可ヲ得タリ
同月丙第七號ヲ以テ赦典ヲ乞フニ方リ其一件書類ハ以來正副二通ヲ出ス可キ旨ヲ達ス

同月丁第二十六號ヲ以テ九州臨時裁判事務本省へ繼受シタルニ因リ該賊處分ノ順序ヲ達ス即チ客年鹿兒島熊本福岡山口ノ四縣ニ於テ衆ヲ聚メ兵器ヲ弄シテ以テ官兵ニ抵抗シタル賊徒ヲ九州臨時裁判所ノ部分トスルコト右ノ殘賊並連累關係人自首シ或ハ捕縛シタルキハ檢事(檢事ナキ地)直ニ裁判所ノ本廳或ハ支廳へ求刑スルコト各裁判所本廳及支廳ニ於テハ本犯ノ口供ヲ以テ本省へ上申シ本省ニ於テ刑ヲ定メ宣告書ヲ作り之ヲ下付シ通常ノ規則ニ從ヒ宣告セシムル等ナリ

同月丁第二十五號ヲ以テ開拓使ヨリ布告布達到達日限豫定ノ通知アルヲ以テ之ヲ大審院諸裁判所へ達ス蓋シ從前開拓使管内ニ於テハ地理ノ不便ヨリ豫シメ日限難定モ爾後郵便線路疏通實地沮滯ノ障礙ナキヲ以テナリ
同月丁第二十七號ヲ以テ新聞條例及讒謗律犯者表式ヲ定メテ之ヲ大審院諸裁判所へ達ス

同年八月國事犯罪人役限内廢篤疾又ハ老疾ニ罹リ及ヒ存留養親セシム可キ者ハ收贖スルヲ聽サル、コトヲ上申シテ裁可ヲ得又同年十二月同犯ト雖モ種類ノ同シカラサルモノアリ且情狀ニモ亦輕重アリテ概シテ宥免ス可ラサルモノト爲シ難キヲ以テ限内老疾或ハ存留養親セシム可キ者ニシテ事實已ムヲ得サル者アルモハ其事實ヲ精査シ尋常收贖法ニ依ラス特典ヲ以テ放免セシコトヲ上申ス同月裁可ヲ得タリ

同月國事犯ト常事犯ト二罪俱ニ發スルモノ處斷ノコトヲ上申ス同年九月二罪俱發ノ例ニ依リ處斷スヘキノ裁令ヲ得タリ
同年九月金祿公債證書ハ本年第廿五號布告ヲ以テ書入質入賣買ヲ許サレタルニ因リ右證書ヲ以テ賍金ノ賠償ニ充ルヲ得ヘキヤノコトヲ上申ス同年九月裁可ヲ得タリ

同月國事犯現ニ懲役ニ服スル者他ノ懲役人ノ逃走セントスルヲ報シ又ハ直チニ捕得シ因テ逃走ヲ致サ、ラシムル者ハ改定律令第三百四條ニ依リ減等スヘキヤノコトヲ上申ス同月裁可ヲ得タリ

同月丁第三十一號ヲ以テ地租改正局ヨリ地券書換ノ裁判言渡ヲ受タル義務者徒ラニ不服ヲ唱ヘ其書換ノ手續ヲ爲サ、ルモ權利者ヨリ裁判言渡書ヲ添

ヘテ出願スルキハ義務者ノ連署ナシト雖モ其言渡書ニ依リ地券ヲ書換テ下付シ義務者ノ所持スル地券ハ無効タルニ因リ命令シテ官ニ還納セシム可シト豫メ府縣ヘ達セントノ照會アリタル旨ヲ達ス

同月丁第三十三號ヲ以テ明治九年第九號ヲ以テ金祿公債證書ノ書入質入賣買ヲ禁セラレ本年第廿五號布告ヲ以テ右ノ禁ヲ解カレタリト雖モ第百九號布告禁止中ニ爲シタル書入等ノ契約ハ其効ヲ有セス單ニ貸借ノ効ヲ有スヘシト東京裁判所ヘ指令シタル旨心得ノ爲メ大審院諸裁判所ヘ達ス

同月開拓使管下札幌ヘ裁判所設置セラレタルニ因リ同使ニ於テ取扱ヒタル裁判事務及ヒ檢事事務並函館裁判所ニ屬スル檢事事務モ一切繼受シ且該事務ニ關スル費用ハ自今同使ヨリ大藏省ヘ納付スルヲ以テ同省ヨリ領收ス可シトノ制旨ヲ奉ス

同年十月小笠原島内務省出張所ヘ自今島内裁判事務及ヒ警察事務ヲ附セラレタル制旨ヲ奉ス

同月丁第三十四號ヲ以テ終審裁判言渡ノ後偽證タルコトヲ發覺シテ上告シ偽證明白ナルキハ上等裁判所ノ裁判固ヨリ効ヲ失フ可キモノトス故ニ本人ヨリ該上等裁判所ヘ其裁判取消ノ願ヲ爲ス可キニ因リ其旨ヲ以テ上告狀ヲ却

下ス可シト大審院ヘ指令シタル旨各上等裁判所ヘ達ス

同月内務省起家遺留財産處分ノ下問ニ對シ意見ヲ上陳ス

同月内務省起家除族跡襲族ノ下問ニ對シ意見ヲ上陳ス

同月丁第三十六號ヲ以テ地方裁判所ニ於テ上等裁判所ノ言渡ヲ執行スルニ臨ミ其執行ノ命令ハ判文ト意相齟齬スルヲ以テ其判文ノ説明ト判文ニ違ヒシ執行ノ救正トヲ合セテ之ヲ其上等裁判所ニ差出スト雖モ之カ説明ヲ與ヘスシテ却下セラレタルヲ以テ直チニ上告シタルニ依リ其却下ノ裁判ヲ破毀シ其上等裁判所ニ於テ其執行ノ説明ヲ與フ可キモノト判決シテ之ヲ其裁判所ヘ附スヘシト大審院ヘ指令シタル旨各上等裁判所ニ達ス

同月丁第三十八號ヲ以テ本年五月丁第十五號丁第十六號達刑事呼出狀脚夫賃郵便稅支出ノ儀ハ裁判所及支區廳ヨリ地方廳ヲ經由シテ本人ヘ送達スル分ハ該裁判所ヨリ地方廳ニ至ル送達費用該裁判所ノ支拂ニ屬スト改正シタル旨ヲ達ス

同月丙第九號ヲ以テ民事審理中及ヒ裁判宣告後該事件ニ付刑事ノ告訴ヲ爲シタル場合罪證明ナルキハ民事ノ審理ヲ申止シ又ハ裁判執行ヲ停止ス可キ旨ヲ達ス

同年十一月帶勳者罪ヲ犯シタル時判任官以下及平民ハ直ニ逮捕ス可キヤノ
ヲテ上申ス同年十二月勳三等以上ハ勅任ニ準シ六等以上ハ奏任ニ準シ七等
以下ハ判任ニ準スヘシトノ裁令ヲ得十二年六月丙第八號ヲ以テ之ヲ大審院
裁判所檢事ニ達ス

同月丁第三十九號ヲ以テ刑事被告人ニ保釋ヲ許シタルキハ保證人ヲシテ所
轄ノ警視署(各地ニ於テハ警察署)へ届出サシメ且保釋中異狀アレハ亦保證人ヲシテ直
ニ同署へ届出サシム可キ旨ヲ達ス

同月丁第四十一號ヲ以テ失踪逃亡者ノ遺財ハ家族ニ保管セシメ家族ナキキ
ハ區戸長ニ保管セシメ其區戸長ニ保管スル財産ハ都テ裁判上ノ處分ニ任シ
其負債ナキ者ハ本人歸來セハ之ヲ返附シ死亡シテ相續人ナキ遺財ハ直ニ
官沒シ若負債アルキハ裁判上ノ處分ニ任スヘキノ裁令ヲ得タリト内務省ヨ
リ通知アリタル旨ヲ達ス

同月丙第十一號ヲ以テ赦典減等人員表式ヲ定メテ之ヲ達ス
同年十二月公債證書利子下渡期限中ハ讓渡ノ約定ヲ見合ス可キ旨本年第廿
六號ヲ以テ布告セラレタリ然ルニ該公布ハ只其手續ヲ一時停止スルノミニ
シテ讓渡賣買等ノ契約ヲ禁スルニ非ラサルヲ以テ右期限中ニ爲シタル讓渡

賣買ト雖モ固ヨリ其効ヲ有スヘキモノナルヤノヲテ上申ス十二年一月裁可
ヲ得タリ乃チ同年同月丁第六號ヲ以テ之ヲ大審院諸裁判所ニ達ス

同月琉球藩民士族平民ノ區別ハ都テ同藩ニ於テ定ムル所ノ族籍ニ依テ取扱
ヒ親雲上筑登之等ノ階級ハ固ヨリ同藩限設ケタルモノナレハ本邦ノ制度ニ
據ルヘキモノニ非ラサル旨内務省へ指令セラレタリトノ制旨ヲ奉ス十二年
一月丁第三號ヲ以テ之ヲ大審院諸裁判所ニ達ス

同月琉球藩民ノ民事控訴管轄ヲ大坂上等裁判所へ屬セラレタルニ因リ内地
人民ト藩民ト取結ヒタル契約ニシテ藩法ニ照セハ効アルモ國法ニ照セハ効
ヲ失シ或ハ我ニ有効ナルモ彼レニ無効ナル如キハ確定ノ公布アルマテハ事
實ヲ具シテ本省へ申稟セシメ又藩民互相ノ争訟ニシテ藩廳ニ於テ裁判シタ
ル件ト雖モ控訴ニ及フキハ之ヲ受理セシメ又内國人ト藩民ト交渉スル争證
ノ手續ハ藩民ノ原告タルト被告タルトナ間ハ都テ一般ノ定規ヲ遵奉セシ
メ又訴訟用罫紙ハ未ダ該藩ニ施行セサルヲ以テ控訴ニ於テモ之ヲ用ヒシメ
ス又内國人人民ト藩民交渉ノ詞訟ハ丁卯前後ノ貸借ニ論タク之ヲ受理セシメ
又海路險惡ノ爲メ遷延シタル日數ハ控訴期限内ニ算入セシメ又控訴期限
外猶豫ノ日數ハ實際ノ里程(從鹿兒島縣至琉球藩)ニ依テ計算セシメ又内國人

民ヨリ彼ノ藩廳ニ對シ彼藩民ヨリ我官廳ニ對スル詞訟ハ人民ノ院省使府縣ニ對スル詞訟ト同ク受理セシメ又民事裁判ノ執行ハ内務省出張所ニ擔當セシメンコト等ヲ上申ス十二年二月貸借ノ争訟ニシテ丁卯以前ニ係ル者ハ明治五年第三百十七號(平民相互ノ金穀貸借慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ不及明治元年正月元日以後ノ分ハ裁判ニ及フ)六年第九號(動産不動産ヲ質物ニ取リタル分ハ慶應三年丁卯十二月晦日以前ト雖モ裁判ニ及フ)ノ布告ニ依リ其他ハ上申ノ如シトノ裁令ヲ得タリ

同月丁第四十四號ヲ以テ訴訟入費ノ請求ハ素ヨリ本人ノ自由ナリト雖モ之ヲ請求セント欲スルモノハ裁判言渡前ニ請求セシム可キ旨ヲ達ス
同月丁第四十五號ヲ以テ證書ノ印紙貼用規則ニ觸ル者ハ直ニ其廉ヲ以テ處罰シ規則ノ如ク印紙ヲ貼用セシメ該證書取揚ケ審理ス可キ者タリト東京上等裁判所ヘ達シタル旨ヲ達ス蓋シ甲ナルモノ乙ヨリ二千圓ノ負債アリテ第一回ハ甲ヨリ千圓ヲ償却シテ乙ヨリ請取證ヲ領收ス(印紙貼用ナシ)第二回ハ甲ヨリ五百圓ヲ償却シ乙ヨリ第一回償却ノ金額ヲ合シタル千五百圓ノ請取證ヲ付シ前ニ甲ヘ付シタル請取證ノ返リ證書ヲ領收ス(印紙貼用ナシ)爾後乙ヨリ殘額五百圓ノ延滞ヲ認求ス然ルニ甲ハ却テ五百圓ノ過償ナルヲ以テ之ヲ取戻サントノ答辨ヲ爲シ千五百圓ノ請取證ト(印紙貼用ナシ)自ラ印紙貼用消印セシ千圓ノ請取證ト(前

印紙貼用ナキモノト呈出シ乙ノ呈出シタル返リ證書(印紙貼用ナシ)ハ證券印稅規則第一條第一類第一項ニ觸ル、ヲ以テ裁判上無効ナル旨ヲ主張スル等ノ場合アルヲ以テナリ

同月丙第十二號ヲ以テ内國人原告人ニテ外國人ニ係ル民事訴訟表式ヲ定メテ之ヲ達ス

同月丙第十三號ヲ以テ内國人原告ニテ外國人ニ係ル刑事訴訟表式ヲ定メテ之ヲ達ス

十二年一月曩ニ期限外ノ上告ニシテ大審院ニ於テ破毀スト雖モ原裁判ノ出スニ失スル者ハ再ヒ拘致服役ヲ用ヒサルノ裁可ヲ得タルニ因リ死罪ニ該ル者ト雖モ出スニ失スル者ハ同ク原裁判ノ如ク執行センコトヲ上申ス同年二月裁可ヲ得タリ

同月明治九年第五百十六號ヲ以テ僧尼ト公認スル者ハ教導職試補以上ニ限ル旨布告セラレタルニ因リ教導職試補以上ニ非サル僧尼ノ師ノ財物ヲ盜ム如キハ何律ニ依テ處斷スヘキヤノコトヲ上申ス同年三月斷罪無正條々ニ依リ律例第百十六條(該條ニ曰ク凡僧尼ノ財物ヲ盜ム者ハ子弟私擅用財律ニ依リ同居ノ徒弟相盜ム者ハ親屬相盜律ニ依リ凡人ニ三等ヲ減ス各居ニ係ル者ハ師弟ト雖モ並ニ比擬シテ處斷スヘシト)ノ裁令ヲ得タリ

同月地所賣買ノ契約既ニ成リタル者ハ地券書換ノ手續ヲ爲サスト雖_レ詐偽ノ所爲ニ出ツルニ非_レハ賣主身代限財産羅賣中ニ加ヘサルヲ至當トセン_レヲ上申ス同年三月裁可ヲ得タリ

同月丁第一號ヲ以テ明治八年第三百三號布告第三項中習慣ノ意義ニ關シテ靜岡裁判所ヘ指令シタル旨心得ノ爲メ達シ同年二月丁第九號ヲ以テ慣習トハ民法上人民ノ慣行認許スル者及ヒ從來官民ノ間ニ慣行スル例ニシテ條理ニ背戾セサル者ヲ謂フト改令シタル旨ヲ達ス

同月丁第五號ヲ以テ英國政府ニ於テ千八百六十五年議定支那日本條例ト題セル條例改正且右條例ニ據リ裁判所開廳等ノ_レ外務省ヨリ通牒アリタル旨心得ノ爲メ達ス

同年二月外國人ニシテ内國ノ勳等ニ叙セラレタル者及ヒ内國人ニシテ外國政府ノ勳等ニ叙セラレタル者罪ヲ犯シタル時ハ一般ノ外國人内國人ト同ク處分スヘキヤノ_レヲ上申ス同年三月外國人内國人ノ勳等ニ叙セラレタル者ハ内國ノ帶動者ト同ク處分シ内國人外國政府ノ勳等ニ叙セラレタル者ハ其處分ヲ殊別スルニ及ハストノ裁令ヲ得タリ

同月明治六年第一百一號布告ヲ以テ改正セラレタル鐵道犯罪罰則各條中總テ

罰金何圓以内禁錮何日以内トアリ而シテ第二條第九條第十一條ノ罰金或ハ禁錮ニ限リ以内ノ字ナシト雖_レ犯則ノ情狀ニ依リ處分ノ當ヲ得ルハ各條ト同ク以内ノ字ヲ加フルヲ便宜トセン_レヲ上申ス乃チ第十二號布告ヲ以テ右罰則中禁錮ヲ禁獄ニ改メ及第二條第九條第十一條ヲ改正セラル

同月贓品領置中紛失セシキハ其領置者ニ賠償セシムヘキヤノ_レヲ上申ス同三月賠償スルニ及ハサルノ裁令ヲ得タリ

同月丙第一號ヲ以テ自今死罪囚ノ赦典ヲ乞フ可キ者ハ檢事章程第三條ニ照シ裁判ヲ得ルノ後具上シ其赦典ヲ乞ヒタル_レハ決放ヲ執行スル所ノ地方官ヘ通知ス可キ旨ヲ達ス

同月丙第二號ヲ以テ微罪ノ裁判ニシテ檢事ノ上告ニ係リ之カ爲メ實際ニ於テ本犯却テ困難ヲ受ルモノ少カラサルヲ以テ以來原裁判格別不當ノ廉ナキモノハ理由ヲ付セス直チニ却下スル旨ヲ檢事ニ達ス

同月丁第七號ヲ以テ公用罫紙ハ明治八年第五十二號公布ニ依リ十三行罫紙ヲ用フ可シト雖_レ警察上各裁判所其他府縣等ヘ往復ノ文書ハ費用節減ノ爲メ十一行半紙罫紙ヲ用ユルモ苦シカラサルノ裁可ヲ得タリト内務省ヨリ通牒アリタル旨ヲ達ス

同月丁第八號ヲ以テ從前ノ斷獄表式ヲ廢シタルニ因リ自今各廳ノ適宜ニ調成シテ苦シカラサル旨ヲ達ス

同年三月電信條例第十七條ニ凡ソ犯罪ノ形狀ヲ裁判官ニ報告シテ其處分ヲ乞フ手順ハ工部省ニテ取扱フノ權ヲ有ストアリ然ルニ檢事ヲ置カレタルヲ以テ是等ノ犯者モ檢事ヲシテ彈告セシメントナ上申ス乃チ第九十八號ノ布告ヲ以テ該條ヲ刪除セラル

同月罪囚拷訊ノ法ヲ廢センコトナ上申ス蓋シ拷訊ノ法タル罪囚誣服冤死ノ弊アルノミナラス既ニ斷罪依證法ノ布告アリ而ルニ此法ノ猶ホ今日ニ存スル所以ノ者ハ警察ノ法未タ備ハラズ證據裁判ノ術未タ熟セサルヲ以テ己ムヲ得サルニ因ルト雖モ之ヲ實際ニ徵スルニ明治七年當省第十九號ヲ以テ拷訊ノ濫用ヲ戒シメ推問上己ムヲ得ス之ヲ用ユル時ハ其顛末ヲ具シテ開申スヘキ旨ヲ達シテヨリ其開申ニ依リ用數ヲ驗スルニ七年九月ヨリ十二月ニ至ル四月間ハ三十九人八年ハ七十一人九年ハ僅々十三人ニ過キス而シテ十年以後ハ今日ニ至ルマテ一人ノ開申ナシ亦以テ警察ノ法及ヒ裁判ノ術漸ク進歩スルヲ見ルニ足ルヲ以テナリ乃チ第四十二號布告ヲ以テ拷訊ニ關スル法令ハ總テ刪除セラル

同月徵役終身以下ト雖モ特別輕減スルキハ自今律ニ明文アルモノ、外都テ稟議ス可シトノ制旨ヲ奉ス

同月小笠原島ニ於テ該島居住ノ外國人ト內國人ノ間ニ起ル事件ハ勿論外國人ト外國人ノ間ニ起ル事件ト雖モ內國人ト同ク處分シ且刑事裁判權限ハ懲役十年ニ止リ懲役終身以上ノ審批及ヒ民事ノ控訴管轄ハ東京上等裁判所ニ屬センコトナ上申ス乃チ同年五月裁可アリ但シ控訴期限ハ追令ス可ヘシトノ裁令ヲ得タリ

同月甲第一號ヲ以テ代言人免許出願期限ニ關スル廉ヲ一切廢シタルニ因リ引續營業ヲ爲サント欲スル者ハ必ス免許滿期前ニ出願ス可キ旨ヲ達ス

同月丙第四號ヲ以テ赦典ヲ乞フノ意見書ハ自今正副三通並ニ關係書類三通ヲ出ス可キ旨ヲ達ス同年五月右關係書類中從前往々役囚當初ノ口供罪案並ニ裁判宣告書及ヒ役後減等セラレタル申渡書等ノ缺ク者アルヲ以テ自今必ス悉皆差出ス可キ旨ヲ達ス

同月丁第十號ヲ以テ原被告上告ノ勝敗ニ因リ初告控訴ノ裁判費訴訟費償却區別ニ關シ大審院ニ達シタル旨ヲ達ス

同月丁第十一號ヲ以テ免許代言人除名停業等ノ處分ニ及ヒタルキハ其屆書

へ右宣告文案ノ寫ヲ副テ進達シ收奪シタル免許狀ハ之ヲ下付シタル地方廳
 へ送附ス可キ旨ヲ達ス
 同年四月東京大學ニ於テ卒業シタル者代言人トナラント欲スルキハ試験ヲ
 要セスシテ免許狀ヲ授與シ且十年九月當省ニ於テ招募シタル出仕生徒モ卒
 業ノ後ハ時宜ニ依リ之ニ準スルヲ得ンヲ上申ス同年五月裁可ヲ得タリ
 同月新律綱領賊盜律ニ省臺寮司府藩縣ノ印トアリ而ルニ省府縣ノ印ニ數種
 アリ何レノ印ヲ以テ右律ニ依リ盜罪偽造等ノ罪ヲ科スヘキヤノヲ上申ス
 同年五月豫メ下附セラレタル省府縣ノ印ハ省臺寮司府藩縣ノ印ヲ以テ論シ
 其長官ノ官姓名ヲ刻シタル印ハ之ニ準シ院省使府縣ニ於テ彫刻シタル印其
 他一般ノ官吏及ヒ郡區戶長等ノ職務ニ依リ官姓名ヲ刻シタル印ハ都テ餘ノ
 印ヲ以テ論スヘシトノ裁令ヲ得タリ
 同月沖繩縣ハ新置草創ニ屬シ刑事裁判事務ハ内地ト同視シ難キヲ以テ死罪
 ナ除クノ外適宜處分セシメ且舊藩律ニ依リ處斷シタルモノハ重罪犯ト認ム
 ル者ノ外ハ放免スル等總テ縣令ニ任シテ便宜處分セシメンヲ上申ス同年
 五月裁可ヲ得タリ
 同月控訴上告手續第五條ニ掲ケタル控訴期限ニ猶豫ヲ與フル里程中海路計

算ノヲ上申ス同年五月明治五年第三百三十號布告ニ依リ海里ハ陸里十六町
 九分七厘五毛ヲ以テ計算ス可キノ裁令ヲ得タリ
 同月丁第十三號ヲ以テ出版條例及ヒ寫真條例發行以來右條例ニ抵觸處分セ
 シモノヲ取調且以來右ノ犯者ヲ處分シタルキハ内務省へ通知ス可キ旨ヲ達
 ス
 同月文官及ヒ非役ニシテ勳位ヲ有スルモノ國事犯又ハ除族及懲役實決ノ刑
 ニ該ルカ又ハ舊惡減免贖罪收贖セララルト雖モ其罪破廉耻ニ係ルトキハ其罪
 狀及刑名ヲ賞勳局ニ具申シ勳位褫奪ノ後刑名ヲ宣告ス可シトノ制旨ヲ奉ス
 同月丁第十四號ヲ以テ之ヲ大審院諸裁判所ニ達ス
 同年五月官吏其職務ニ係ル外政談講學ヲ目的トシテ公衆ヲ聚メ講談演說ノ
 席ヲ開ク等不都合ナキ様各長官ニ於テ取締ヲ爲ス可シトノ制旨ヲ奉ス
 同月明治十年第八十一號布告第四項ニ酒類ヲ請賣スルモノハ假令飲食店ト
 雖モ請賣鑑札申受營業稅上納可致事トアリ然ルニ旅舍或ハ貸席等飲食ヲ主
 トシテ營業セサル者ト雖モ酒類ヲ購求シテ來客ニ供スル時ハ飲食店ト同視
 シテ處罰スヘキヤノヲ上申ス同月酒類ヲ受賣スル者ハ旅舍貸席ヲ問ハス
 總テ請賣鑑札ヲ受ク可キ者ナルニ因リ犯則者トシテ處罰スルハ其酒類ヲ請

賣スルト否トニ依ル可シトノ裁令ヲ得タリ

同月明治六年第六十三號布告ニ金銀其他借用證書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者等アルトモ其借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者へ償却セシム可シトアリ故ニ若シ連印者各々現在スルキハ其各人ニ對シテ認求ス可キヤノコトヲ上申ス同月借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記セサルキハ連帶ノ義務者ト心得可シトノ裁令ヲ得タリ

同月丙第五號ヲ以テ著書ヲ以テ故ラニ死者ヲ讒謗シタル者ニ對シ死者ノ親屬ヨリ告訴スル時ハ讒謗律第五條及ヒ第八條ノ法旨ヲ擴充シ生存者ヲ讒謗スル者ト同ク處分シ其刻版及ヒ現存ノ印本ヲ勾取スルヲ得ヘシト東京裁判所檢事へ指令シタル旨ヲ達ス

同月丙第七號ヲ以テ文部省所轄東京大學法學部ニ於テ法律卒業ノ者該校ヨリ受タル卒業免狀ヲ證トシテ代言營業出願セシキハ代言人規則第二條第一項ヨリ第三項ニ係ル檢査ヲ須ヒス免許狀授與ス可キニ因リ右出願セシ時ハ卒業免狀ヲ檢査シ其寫ヲ願書ニ副テ進達ス可キ旨府縣ニ達ス

同月丁第十五號ヲ以テ人民ヨリ院省使等ニ對スル訴訟ノ審理中解訟シ又ハ

司法裁判ニ歸シ官府ノ勝訴トナリタル者アルキハ一々具申スヘキ旨ヲ上等裁判所ニ達ス

同月丁第十六號ヲ以テ人民ヨリ院省使府縣ニ對スル詞訟ニシテ上等裁判所ノ裁決ニ服セス上告スル者アル時ハ一々書類ヲ副テ受理不受理ヲ申稟ス可シト大審院へ達シタル旨上等裁判所ニ達ス

裁判所廢置 附管轄

本年度中支廳區裁判所ノ増設ニ係ル者ヲ舉レハ熊谷裁判所管内大宮區裁判所松本裁判所管内上諏訪、岩村田、飯山三區裁判所京都裁判所管内福知山、敦賀兩區裁判所神戸裁判所管内高梁區裁判所松山裁判所管内隱岐支廳及隱岐區裁判所弘前裁判所管内本庄區裁判所仙臺裁判所管内大河原、宮古兩區裁判所福島裁判所管内米澤、酒田兩支廳及酒田區裁判所函館裁判所管内江刺區裁判所ノ十六所ニシテ前年度ヨリ支廳ハ三所ヲ増シ區裁判所ハ十二所ヲ増ス即チ本年度末現在ノ裁判廳ハ大審院及上等裁判所四所地方裁判所二十三所同支廳四十二所區裁判所百六十三所合セテ二百三十三所ナリ廳名ヲ示ス左

ノ如シ

谷 熊 戸 水 濱 横														
前 橋			浦 和		朽 木									
名古屋	高崎	太田	前橋	浦和	大宮	熊谷	宇都宮	朽木	下妻	土浦	水戸	八王子	小田原	横濱

大 審 院															
東京上等裁判所															
大坂上等裁判所															
宮城上等裁判所															
長崎上等裁判所															
地方裁判所															
本 廳															
支 廳															
千 葉															
區裁判所															
八日市場	佐貫	千葉	林町	二長町	富士見町	巴町	築地	東京、横濱、水戸、熊谷、名古屋、松本、新潟、静岡、八地方裁判所ヲ管ス					江、京都、大坂、神戸、金澤、松山、高知、松江、廣島、八地方裁判所ヲ管ス	弘前、仙台、福島、函館、四地方裁判所ヲ管ス	長崎、熊本、鹿児島、三地方裁判所ヲ管ス

<p style="text-align: center;">本 新 濁</p>														
<p style="text-align: center;">上 田 野 長 高 岡 相 川</p>														
上 諏 訪	上 田	岩 村 田	長 野	飯 山	新 潟	新 發 田	村 上	高 田	糸 魚 川	長 岡	柏 崎	六 日 市	相 川	靜 岡

<p style="text-align: center;">名 古 屋 松</p>														
<p style="text-align: center;">安 濃 津 岡 崎 岐 阜</p>														
熱 田	一ノ宮	安 濃 津	山 田	四 日 市	上 野	岡 崎	豐 橋	岐 阜	大 垣	御 嵩	高 山	松 本	飯 田	大 町

戸 神													坂 山 大			
岡 山				姫 路		堺					和 歌 山					
津 山	玉 島	高 梁	御 野	豊 岡	飾 磨	篠 山	洲 本	兵 庫	五 條	奈 良	堺	田 邊	和 歌 山	天 王 寺		

都 京						岡 靜								
大 津			宮 津			甲 府			濱 松					
中ノ島	敦 賀	小 濱	彦 根	大 津	福 知 山	宮 津	園 部	伏 見	京 都	谷 村	甲 府	濱 松	下 田	沼 津

島 廣 江 松 知 高														
山 口						濱 田	鳥 取	隱 岐				德 島		
萩	岩 國	山 口	三 次	尾 道	廣 島	濱 田	鳥 取	隱 岐	杵 築	米 子	松 江	脇 町	德 島	中 村

山 松 澤 金														
高 松		宇 和 島					富 山	福 井	七 尾					
高 知	丸 龜	高 松	宇 和 島	大 洲	西 條	松 山	魚 津	富 山	大 野	福 井	輪 島	七 尾	小 松	金 澤

職員附雇外國人

本年度末即十二年六月三十日司法部内現在ノ職員左ノ加シ

鹿	兒	島				
宮		崎				
中	津	鹿	兒	島	水	引
大	島	宮	崎	延	岡	都
城						

官

職

人員

十一年六月三十日ヨリ

卿

補

二

増

減

書記官

九

本														
大					分					佐				
豆					竹					佐				
田					田					伯				
八					山					人				
代					鹿					吉				
町					山					口				
熊					本					嚴				
原					小					倉				
久					留					米				
福					岡					唐				
津					佐					賀				

大 審 院	東 京 上 等 裁 判 所	大 坂 上 等 裁 判 所	宮 城 上 等 裁 判 所	長 崎 上 等 裁 判 所	東 京 裁 判 所	京 都 裁 判 所	大 坂 裁 判 所	橫 濱 裁 判 所	新 潟 裁 判 所	神 戶 裁 判 所	函 館 裁 判 所	長 崎 裁 判 所	水 戸 裁 判 所	熊 谷 裁 判 所	弘 前 裁 判 所
二〇	一五	二	三	五	一三	六	九	三	四	五	一	一三	三	五	二
	五				四六	二五	四〇	一三	二六	三三	六	二九	一九	一五	一五
					三	一									
二	二				四	五									
六	三				三二	六	九	八	九	一〇	六	一七	六	五	二
二六	二〇				一九	二二	四六	七	二〇	三七	七	三四	一二	二六	一四
二	八				四	七	一〇	七	五	一〇三	二	二	四	四	四
二二	四一				八七	七三	九〇	三〇	五五	一〇三	二	二	四	四	四
二	一〇				四三	四六	三二	二七	一四	一	四	七	二	二	一
八九	一〇四				二四八	一八三	二二六	八八	二二八	一八八	四七	一一一	一〇七	一一四	九二
九	一八				一五								六		一七
														六	

大審院各裁判所ノ現員左ノ如シ

廳名	判事	判事補	檢事	檢事補	屬	出仕 任判	等外	並御 用掛	合計	增	減
書籍課									一		
學校課				一					二		
會計課									一		
刑法課								一	四		
刑法編纂掛								三			
民法課								二	五		
民法編纂掛								一	七		
修補課								一	五		
檢事局								二	五		
治罪法取調掛								二	四		
辭書取調掛								一	一		
合計	一	一	一	一	五	一七	三	二二	八二	一八	一四

十一年六月三十日ヨリ

合 計	鹿兒島裁判所	熊本裁判所	廣島裁判所	高知裁判所	松山裁判所	松江裁判所	名古屋裁判所	金澤裁判所	松本裁判所	静岡裁判所	福島裁判所	仙臺裁判所
一七一	二	三	四	三	四	五	九	六	四	四	四	五
五一七	一四	二三	二〇	一三	一二	一六	三一	二二	一九	一五	二一	二〇
一三												
三三												
二二五	五	三	三	三	五	三	一〇	五	三	三	二	五
四九八	八	二〇	二二	二一	一六	一五	二六	一九	五	二七	二七	一七
一、三一七	一四	五〇	五五	六三	四六	六九	六一	四二	三二	五〇	四四	三五
五八〇	二五	三四			一二	五	二七	五三	一九	四四	五〇	三三
三、三五三	六八	一三三	一〇四	一〇三	九五	一一三	一六四	一四六	八二	一四三	一四八	一一五
一一三				五		九				三		九
七六	一	二一	一六		九						四	

表中屬トアルハ司法屬ノ各裁判所ニ在勤スルモノ及ヒ大審院裁判所屬ヲ合算シタルモノナリ以下倣之

前表中ヨリ判事判事補ヲ抽記シテ俸給ヲ區別スルヲ左ノ如シ

名 廳	勅任		奏		任		判		判事補		計	合
	年俸	同	同	同	同	同	同	同	同			
大 審 院	一	二	一	一	一〇	五					二〇	一
東京上等裁判所		一			三	三	一	二			二〇	三
大坂上等裁判所			一	一	三	三	一	二			二七	一
宮城上等裁判所					一	一		一			二	
長崎上等裁判所		一			三	三	一	一			八	一
東京裁判所				一	二	三	二	七			五九	
京都裁判所				一	三	三	一	七			三一	
大坂裁判所			一		三	三	一	七			一九	五
横濱裁判所				一	三	三	一	七			一六	四
新潟裁判所				一	三	三	一	七			一六	七
神戸裁判所			一		三	三	一	七			一六	七
合 計												
増 減												

合 計	京 都 裁 判 所	東 京 裁 判 所	長 崎 上 等 裁 判 所	宮 城 上 等 裁 判 所	大 坂 上 等 裁 判 所	東 京 上 等 裁 判 所	大 審 院	廳 名				
								奏 任	判 任	補 任		
二					一	一		十 百 月	圓 五 俸			
一	一							圓 百 同				
三		一				一	一	圓 十 八 同				
七		二	一	二	一		一	圓 十 五 同				
五	一	一	一		二			五 四 同	四 十			
五						二	三	圓 十 四 同				
七	一	一	一	一	二		一	五 三 同	五 十			
四		一			二	一		圓 十 三 同				
六	一	一	一	一			二	五 二 同	十			
五	一	一	一	一	一			圓 十 二 同				
四 五	五	八	五	五	九	五	八	計 合				
二							二	增		十 一 年 六 月	三 十 日	ヨリ
八		二	二	一	二	一		減				

同 檢 事 檢 事 補 ナ 抽 記 シ テ 俸 給 ナ 區 別 ス ル 左 ノ 如 シ

合 計	鹿 兒 島 裁 判 所
一	
四	
四	
三	
四	
三〇	
三三	一
二三	一
六九	
四五	一
四二	二
五八	二
九七	二
二九	四
一四	三
六八	一六
八八	一
五二	
二七	

熊 本 裁 判 所	廣 島 裁 判 所	高 知 裁 判 所	松 山 裁 判 所	松 江 裁 判 所	名 古 屋 裁 判 所	金 澤 裁 判 所	松 本 裁 判 所	靜 岡 裁 判 所	福 島 裁 判 所	仙 臺 裁 判 所	弘 前 裁 判 所	熊 谷 裁 判 所	水 戸 裁 判 所	長 崎 裁 判 所	函 館 裁 判 所
								一							
	一	一	一	一	一	一	一		一	一			一	一	一
一	一		一		一					一	一	一	一		
		二	一		二	二	二	一			一			二	
二		一	二	四	七	三	一	二	三	三		四	一	一〇	
	二				四	二	二		一	五	一		二	一	二
	一		一		一		二	二	三	二			一	一	
一	四	四	一	四	五	五		一	一	一	三	三	一	三	
三	四	二	三	三	四	二	二	七	四	三	四	一	六	五	
五	四	三	二	三	九	七	三	四	六	四	二	五	五	一	一
一 四	五	四	五	六	八	五	一〇	一	六	五	五	六	四	八	三
二 六	二 四	一 六	一 六	二 一	四 〇	二 七	二 三	一 九	二 五	二 五	一 七	二 〇	二 二	四 二	七
八	一		一	三			九		六			二			
					一	四		二	一					二	

合計	鹿兒島裁判所	熊本裁判所	廣島裁判所	高知裁判所
一				
一				
二				
一				
一				
一				
二				
二五				
三				
二八	二			
四四	五			
一一〇	一一			
二二〇	六	三三		
二二九	一	一		
五八〇	二五	三四		
一二九	七			
四三		一四	八	四

本年度中官吏ノ賞與ヲ受ケシ者三百五十三人ニシテ職務勉勵ニ依リ金圓ヲ賞セラレシモノ二百四十三人生前ノ功勞ヲ賞シテ祭資料ヲ賜ヒシモノ五人多年奉職勉勵ニ付位一級ヲ進メラレシモノ一人山口及九州地方騷擾之際盡力セシニ付金圓ヲ賞與セラレシモノ九十八人鹿兒島逆徒征討ニ際シ盡力セシニ付勳七等ニ叙セラレシモノ一人ナリ

同懲戒例處分ヲ受ケシモノ及規則ニ違犯シテ罰金ヲ科セラレタルモノ六十一人ニシテ懲戒例ニ依リ免職ノモノ一人罰俸ニ處セラレシモノ二人譴責ヲ受ケシモノ五十七人規則ニ違ヒ罰金ヲ科セラレシモノ一人ナリ

本年度中雇外國人ノ雇期滿限ニ因リ更ニ繼約セシモノハ「ムーリエー」「ラパール」「フーク」「アトルフ」「羅寶森」ノ五人新ニ雇ヒシモノハ「ペーチー」「メイ」ノ二人ナリ

雇滿期ニ因リ解約セシモノハ「ラパール」ノ一人ニシテ奉職中ノ功勞ヲ賞シテ金百圓ヲ贈與シ雇期限中彼ノ求メニ因リ解約セシモノハ羅寶森ノ一人ニシテ亦金五十圓ヲ賞與ス即チ十二年六月三十日ノ現員左ノ如シ

奉職廳名	國名	人名	職名	給料	雇期限
本省	佛蘭西	キヌスターウブエミ イルボアソナード フランタラビー	法律顧問	月給七百圓 手当二百圓	自明治九年十一月十五日 至十二年十一月十四日
本省	米利堅	ジョルジ、ワルレス ヒール	法律顧問並裁	月給五百圓	自明治九年八月廿五日 至十二年八月廿四日
本省	佛蘭西	ビエール、ジョセスマ ーリエー	法律顧問	月給三百圓	自明治十一年八月十日 至十二年八月九日
本省	和蘭陀	アダム、ラパール	法律顧問	月給三百圓	自明治十一年八月一日 至十一年九月三十日
本省	佛蘭西	ブロス、ペール、フォル チネー、フーク	法律顧問	月給二百圓	自明治十一年九月十五日 至十二年三月十四日
横濱裁判所	清國	羅寶森	法律顧問	年給四百圓	自明治十一年十二月六日 至十二年十二月五日
横濱裁判所	亞米利加	ルツセル、アトルフ	法律顧問	月給百圓	自明治十一年一月一日 至同年十二月三十一日
大坂上等裁判所	佛蘭西	アール、ペール、ベ ーネー	法律顧問	月給四百圓	自明治十一年七月十四日 至十三年七月十三日
神戸裁判所	佛蘭西	ヂョセフ、チャール ス、ヒクツ、ブドー、レ ラス、メイ	法律顧問	月給百圓	自明治十一年七月十六日 至十二年七月十五日
合計	人員	九人	給料	二千八百四十三圓三十三錢三厘	

十二年六月三十日ヨリ増	人員	二人	給料	五百十圓
年給ハ十二分シテ其一ヲ合計ニ算入ス				

法學專門生徒

法學專門生徒ハ本年度中疾病ニ因リ退校ヲ命セシモノ二人學業ノ不進歩ニ因リ退校ヲ命セシモノ二十三人不品行ニ因リ退校ヲ命セシモノ三人アルヲ以テ十二年六月三十日ノ現員五十一人トス而シテ學期ハ皆第二年後期ニ在リ
 出仕生徒ハ本年度中疾病ニ因リ罷免シタルモノ一人死亡シタルモノ一人アルヲ以テ十二年六月三十日ノ現員ハ四十七人トス而シテ皆十月ヲ以テ卒業セントス

海外留學生徒ハ本年度中佛國巴理府大學校ニ於テ「リサンス」ヲ卒業シテ歸朝セシモノ一人アルヲ以テ十二年六月三十日ノ現員ハ八人ニシテ皆佛國巴理府大學校ニ在リ而シテ四名ハ既ニ「リサンス」ヲ卒業セリ
 茲ニ内外生徒教員及事務掛等ノ總員ヲ示ス「左ノ如シ

生徒教員及事務掛増減	生徒		教員		事務掛	
	徒	生	減	前年度	増	前年度
法學專門	五十一人	二十八人	三人	一人	五人	三人
出仕	四十七人	三人	内國人一人 外國人二人	内國人一人	六人	...
佛國留學	八人	一人
合計	百六人

恩赦特典

恩赦特典奉行ノ「ハ明治八年十月懲役終身以下當省ノ意見ヲ以テ酌量輕減スル」ヲ當分委任セラレ又同十二月罪囚中巧勞奇特ヲ極ムル者ヲ特別輕減スル「ヲ當分委任セラレ尙又十二年三月更ニ自今律ニ明文アルモノ、外ハ都テ裁令ヲ乞フ可シトノ制旨ヲ奉ス
 恩赦ヲ被リタル人員ハ前年度マテ表ヲ附記セシカ本年度ヨリ之ヲ統計表ニ讓リ單ニ取扱ヒタル人員ノ總數ノミヲ掲載ス
 本年度中檢事或ハ警察官ヨリ恩赦特典ヲ乞ヒシモノ千二百六十二人ノ内減

免ニ係ルモノ千五十八人ニシテ内常事犯ハ九百十六人國事犯ハ百四十二人ナリ而シテ其餘ノ二百四人ハ不減免ノモノトス

常事犯ノ減免セラレタル九百十六人ノモノ、原刑ヲ區別スレハ死刑ノモノ十一人懲役終身ノモノ百十九人流終身ノモノ一人禁獄終身ノモノ十一人懲役十年ノモノ二百四十八人準流十年ノモノ十八人禁獄十年ノモノ五人懲役七年ノモノ百三十五人準流七年ノモノ十一人禁獄七年ノモノ七人懲役五年ノモノ五十六人禁獄五年ノモノ一人懲役三年ノモノ六十七人(内一人ハ存留養親ヲ許セシ)同二年半ノモノ六十九人同二年ノモノ五十人同一年半ノモノ十七人同一年ノモノ五十六人同百日以下ノモノ三十一人禁獄七十日以下ノモノ二人禁錮五十日ノモノ一人ナリ

國事犯ノ減免セラレタル百四十二人ノモノ、原刑ヲ區別スレハ懲役終身ノモノ二人同十年ノモノ六人同七年ノモノ三人同五年ノモノ十二人同三年ノモノ三十七人(内存留養親ノモノ四人)二年半ノモノ三人同二年ノモノ廿七人(内存留養親ノモノ一人)同一年半ノモノ十五人同一年ノモノ八人同百日以下ノモノ廿九人ニシテ皆西南騷亂ノ犯罪者ナリトス

國事犯及ヒ人民ヨリ官府ニ對スル訴訟

本年度中國事犯罪ニ係ルヲ以テ刑名ヲ具シテ處斷ノ上裁ヲ乞ヒシモノ九人ナリ

人民ヨリ官府ニ對スル訴訟受理不受理ノ上裁ヲ乞ヒシモノ五十六件内却下ノ指令アリシモノ九件解訟及ヒ願下各二件ニシテ其他ハ悉ク受理スヘシトノ裁令ヲ得タリ

人民ヨリ官府ニ對スル訴訟ノ裁決案ヲ具上スルモノ三十五件ニシテ皆裁可ヲ得タリ

人民ヨリ區戸長ニ對スル訴訟受理不受理ノ上裁ヲ乞ヒシモノ十五件ニシテ悉ク受理ス可シトノ裁令ヲ得タリ

人民ヨリ區戸長ニ對スル訴訟ノ裁決案ヲ具上スルモノ十一件ニシテ皆裁可ヲ得タリ

華族並奏任官犯罪處分及喚問

有勳位非官員ニシテ奏任官取扱者ヲ奏任官部中ニ合算ス

犯罪ノ適律ヲ具シテ上裁ヲ乞ヒシモノ華族五人ナリ

右各費目ニ就キ増減ノ因由ヲ略記スルヲ左ノ如シ
 俸給ノ増加セシハ前年度ハ人員ノ減少及ヒ判事檢事俸給ノ改正等ニ因テ減額ヲ見ルト雖モ本年度ハ支廳區裁判所増設ノ舉アリ且事務ノ秩序漸ク整理セシテ以テ官吏ノ増員ヲ要セシ等ニ由ル
 給與ノ増加セシハ區裁判所ノ増設及ヒ事務ノ繁劇等ニ因リテ雇員ヲ要シ或ハ西南騷擾ノ際有功ノ等外吏へ賞金下賜ノ典アリシ等ニ由ル
 内國旅費ノ減セシハ各廳ノ秩序漸次ニ整理シ自ラ官吏ノ派出轉在勤等ノ減セシニ由ル
 廳中費ノ減セシハ支廳區裁判所新設ノ數及ヒ各廳訟廷新營等前年度ヨリ稍少ク自ラ需用物品ノ減セシニ由ル
 庶費ノ減セシハ本年度モ馬車新調及ヒ用馬ノ購求等アリト雖モ前年度ヨリ修繕新調等ノ減セシニ由ル
 營繕費ノ減セシハ前年度ハ熊本鹿兒島兩裁判所ヲ首トシ數十所ノ新營増築ノ爲メ非常ノ巨額ヲ要セシモ本年度ニ至ツテハ稍工事ノ減セシニ由ル
 外國人諸費ノ減少セシハ雇外國人ノ解約等アリシニ由ル
 内國生徒費ノ減少セシハ生徒ノ欠員アルモ遂ニ補欠ノ舉ナキニ由ル

外國生徒費ノ増加セシハ海外留學生徒歸朝ノ際旅費其他行李運搬等ノ費用ヲ要セシニ由ル
 又本年度ノ經費ヲ各廳ニ區分スルヲ左ノ如シ

廳名	本省		大審院	東京上等裁判所	大坂上等裁判所	宮城上等裁判所	長崎上等裁判所	東京裁判所	計		十年度ヨリ	
	定額	臨時費							計	増	減	
俸給	1,064,400	1,100,000	3,700,000	2,250,000	2,250,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
與給	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
國內旅費	655,560	2,800,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
廳中費	86,290	5,620,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
庶費	3,410,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
營繕費	3,550,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
外國人諸費	82,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
國內生徒費	82,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
外國生徒費	530,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000
計	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000
合計	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000	10,500,000
増												
減												

又本省並大審院諸裁判所本年度末ノ現員ト經費ヲ對照スルコト左ノ如シ

廳名	人員	經費
本省	二九五	二一四一三五
大審院	八九	五三。四八
東京上等裁判所	一。四	四一九五八
大坂上等裁判所	一。六	四二五二八
宮城上等裁判所	四七	一六四。二
長崎上等裁判所	五一	一八八四一
東京裁判所	二四八	七。五九二
京都裁判所	一八三	四二。一。
大坂裁判所	二二六	六二五八五
横濱裁判所	八八	三三。九
新潟裁判所	一。二八	三六二一四
神戸裁判所	一。八八	四七。九。四
函館裁判所	四七	一五、五四六
長崎裁判所	一。二一	四七、三三六
水戸裁判所	一。七	二四、五八一
		三二九

熊谷裁判所	一一四	二七、四九七	七一四
弘前裁判所	九二	二三、五五。	五六四
仙臺裁判所	一一五	三一。四二	二二三
福島裁判所	一四八	三九、五一八	九。三
静岡裁判所	一四三	三三、二八八	二二三
松本裁判所	八二	三一、九五四	五。。
金澤裁判所	一四六	三一、七八七	六六四
名古屋裁判所	一六四	五五、五四八	九五。一
松江裁判所	一一三	二九、二四四	五三九
松山裁判所	九五	二五、七二四	八八。
高知裁判所	一。三	二六、四八四	。。
廣島裁判所	一。四	三六。四三	五。。
熊本裁判所	一三三	四四、六。二	五三五
鹿児島裁判所	六八	二六、五七二	六四六
合計	三、六四八	一、二二九、五五七	五。八

各裁判所ノ新築本年度ノ起工ニ係リ一所ニシテ經費金額千圓以上ニ及フ者
左ノ如シ

廳名	在廳地名	建築種類	總坪數	起工月日	落成月日	經費金額
熊本裁判所	肥後國能田郡 熊本區京町	木造	百四拾七坪五合	十一年七月一日	同年十一月三十日	七千九百五拾老円三拾九錢
同 大分支廳	豐後國大分郡 大分町	木造	六拾貳坪五合	十一年八月一日	同年十二月十日	千七百三拾貳円三拾八錢壹厘
名古屋裁判所岐阜支廳	美濃國下厚見郡 今泉村	木造	百拾八坪五合	十二年三月二日	同年六月三十日	貳千七百六拾六円三拾錢
松江裁判所鳥取支廳	因幡國邑美郡 次市場町	木造	七拾九坪五合	十二年四月廿五日	同年六月廿五日	貳千貳百拾四円八拾錢
松本裁判所長野支廳	信濃國水内郡 長野町	木造	百拾八坪五合	十二年六月廿日	同年六月三十日	千貳拾円
合計			五百四拾六坪五合			金老万五千六百八拾四円八拾七錢壹厘

書籍

翻譯編纂ノ書籍ヲ刊行スル事務ハ書籍課ニ於テ擔當シ都テ法律ニ係ル書籍ヲ印刷上梓スルモノナリ即チ同課ニ於テ本年度中刊行功ヲ竣フル所ノ書目左ノ如シ

△

刊行書目	冊數
各國刑法類纂	上卷 一冊
佛國法理論	第二篇 一冊
佛國治罪法講義	一冊
佛國刑法講義	一冊
佛國訴訟法講義	一冊
佛國民法覆義	第二卷 一冊
佛國訴訟法原論	第一卷 一冊
佛國民法契約篇講義	一冊
佛國商法講義	一冊
類聚法規目錄	甲篇 一冊
同	乙篇 一冊
佛國治罪法略論	一冊
大審院判決錄刑事	九年 一冊

同	德川禁令考	十年	二册
同	大審院判決錄刑事	初篇	六册
同	大審院判決錄民事	十年	一册
同	同 民事	十一年自一月至四月	一册
同	同 刑事	十一年自一月至三月	一册
佛國	佛國訴訟法原論	第二卷	一册
佛國	佛國民法釋要	十年十一年	一册
司法省	司法省布達全書	十年十一年	一册
大審院	大審院判決錄刑事	十一年自四月至六月	一册
類聚	類聚法規現行	第一卷	一册
同	同	第二卷	一册
佛國	佛國政法論	第二卷	一册
大審院	大審院判決錄刑事	十一年自七月至九月	一册
憲法	憲法志料	第一輯	四册
同	同	第二輯	六册

翻譯及ヒ編纂ノ兩課ニ於テ本年度中翻譯編纂シタル書目左ノ如シ

各國	各國刑法類纂	中卷	一册
類聚	類聚法規現行	第三卷	一册
佛國	佛國法理論	第二卷	一册
佛國	佛國政法論	第二卷	一册
類聚	類聚法規現行	第二卷	一册
類聚	類聚法規現行	第四卷	一册
類聚	類聚法規現行	第五卷	一册

翻譯				
亞米利加合衆國	亞米利加合衆國ヤナシシ刑法	一册		
醫家	醫家斷訟學	七册		
萬國	萬國囚獄事務取調委員報告	一册		
佛國	佛國商法註解	五册		
佛國	佛國常用法	四册		
訴訟	訴訟法原論	五册		

纂		編		譯										
現行訴訟法拾要	現行民法拾要	憲法志料	現行類聚法規	沿革類聚法規目錄	魯國刑法	魯國民法	佛國政法論	民法提要	德馬國民法異同辨	和蘭民法異同辨	奧地利民法異同辨	英佛民法異同辨	民法覆義	訴訟法字書
自明治十年至明治十年	自明治十年至明治十年	第二篇	自第一卷至第五卷	甲乙篇										
二冊	二冊	六冊	五冊	二冊	十冊	六冊	三十冊	六冊	一冊	四冊	五冊	一冊	六冊	五冊

代言人

本年度中代言人ノ新ニ免許狀ヲ與ヘシモノ二百九十六人前年度ヨリ繼續シテ營業スルモノ四百九十六人合セテ七百九十二人ニシテ本年度中廢業セシモノ四十五人除名セシモノ三人死亡セシモノ五人官吏ニ轉スルモノ二人アリ即チ十二年六月三十日ノ現員ハ七百三十七人ナリト雖兩裁判所ヲ兼テ營業スルモノ百八人アルヲ以テ其實數ハ六百二十九人トス而シテ右ノ内停業ニ處セラレシモノ六人アリ代言人所在各裁判所左ノ如シ

廳名	人員
東京上等裁判所	八八
大坂上等裁判所	五〇
宮城上等裁判所	一二
長崎上等裁判所	四
東京裁判所	七五
京都裁判所	二八

大坂裁判所	六七
横濱裁判所	五
神戸裁判所	六八
長崎裁判所	二五
函館裁判所	七
新潟裁判所	一八
熊谷裁判所	一一
水戸裁判所	一三
名古屋裁判所	四三
静岡裁判所	一六
松本裁判所	七
仙臺裁判所	二九
福島裁判所	三四
弘前裁判所	一三
金澤裁判所	一五

松江裁判所	一九
廣島裁判所	三五
高知裁判所	三〇
松山裁判所	一五
熊本裁判所	八
鹿兒島裁判所	一
開拓使札幌本廳	一
合計	七三七
重複ヲ除キタル數	六二九
十一年六月三十一日ヨリ増	二〇七

重複數ハ兩裁判所兼業ノ者ニ係ル

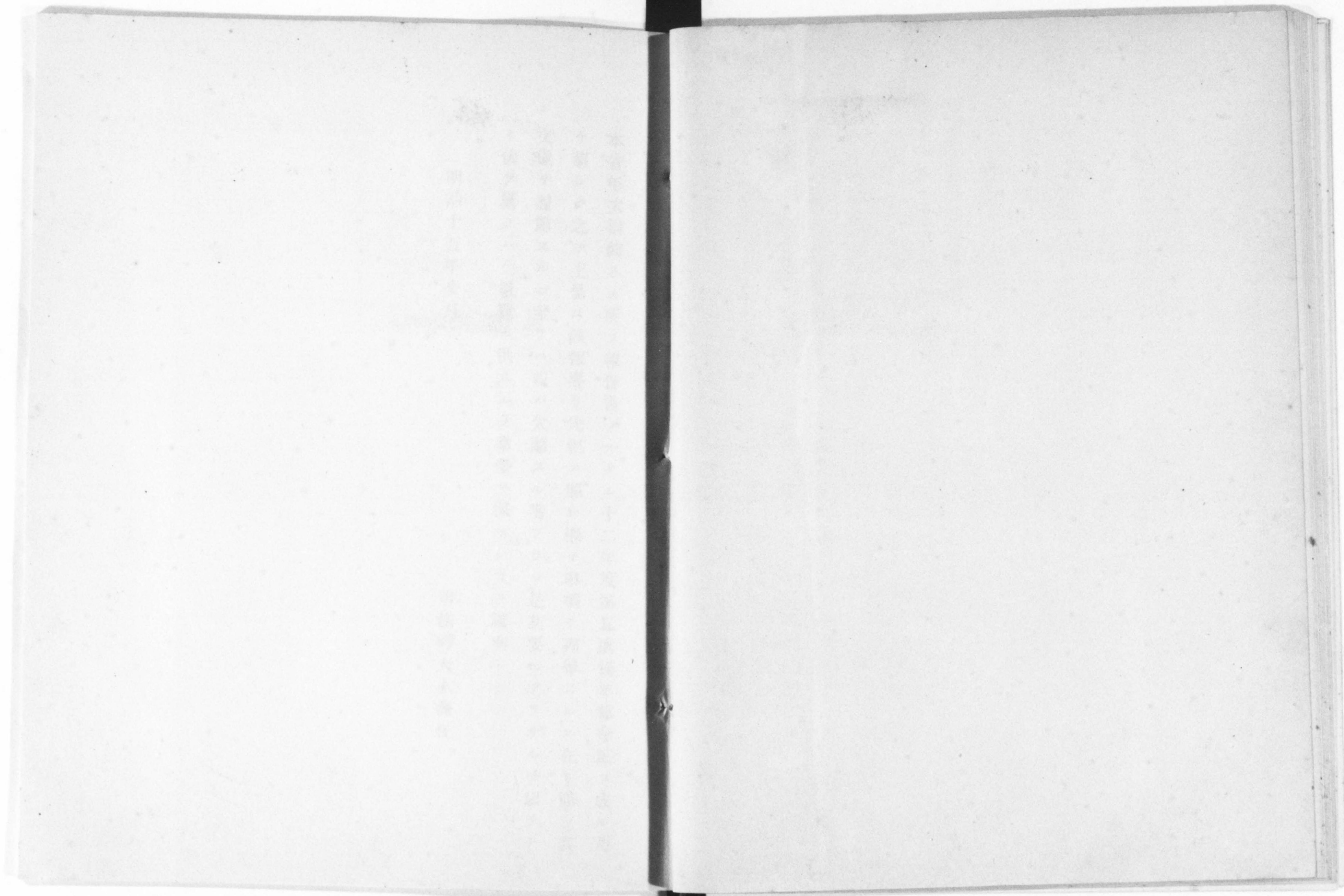
司法省第五處務年報

第十二年度

保 第 二 百 八 十 八 號	司 法 省 記 錄 文 庫
--------------------------------------	---------------------------------

第 一 二 號	第 六 架	第 二
------------------	-------------	--------

H600
S 1
7 5



本省年次纂輯スル所ノ報告書ノ一タル十二年度第五處務年報今正ニ成ル乃
々恭シク之ヲ上呈ス該報專ラ先軌ニ照シ概テ事項ヲ列舉スルニ在リ而シテ其
文儀ヲ整飾スルニ至テハ或ハ欠略スル者アラシキ是其要ニアラサルヲ以テナ
リ伏テ冀クハ 叡覽ニ供スルノ幸榮ヲ保センコトヲ謹奏

明治十五年十月

司法卿大木喬任

昭和十五年十月

田舎郡大木藩

○此ノ算ハ、贈賈ニ由ルハ、幸榮ノ捐トシテ其表
文録ニ登載スルニ至マハ、大細ニテ其要ニテモ以テ
ト恭ニシテ呈スル時、其ノ照ニ謝ル事更ニ極力スルニ
本旨ヲ大體ニシテ、其ノ詳ニテハ、一々十二半、其
正當ニテ、其ノ詳ニテハ、其ノ詳ニテハ、其ノ詳ニテハ、

凡例

- 一 本書ハ會計年度ニ從テ編纂ス
- 一 表紀ニ係ル者ハ數字ヲ以テ之ヲ記シ、ヲ加ヘテ以テ千位ヲ分ツ
- 一 同上金數ハ畫線ヲ引テ殊ニ圓位ヲ示シ或ハ又、ヲ附シテ圓位ヲ分ツ
- 一 同上數中○ヲ附スル者ハ零數ナリ

司法省第五處務年報目次

法律

裁判所管轄附廢置

職員附雇外國人

法學專門生徒

恩赦特典

國事犯及人民ヨリ官府ニ對スル訴訟

華族並奏任官犯罪處分附喚問

經費附土木

書籍

代言人

一 同土邊中... 一 同土金邊... 一 奏請... 一 本書... 一 會... 一 其...

升書人
 書
 得費
 華
 國
 恩
 志
 辯
 志

司法省第五處務年報

法律

H600
S 1
7 5

十二年七月法律學校起業以來既ニ滿三年ニ及ヒ最早豫科年限ハ僅ニ一ケ年ニ相成自今文學授業益切要ニ付理科ノ内數學等ハ本年九月ヨリ全ク相廢シ專ラ歴史性理等ノ學術ヲ進メンコトヲ要ス依テ理學教師佛國人フーク氏ヲ來ル九月十四日條約滿期後更ニ向六ケ月(十二年八月十九日ヨリ)雇繼且從前同氏給料ハ毎日二時間ノ教授ニテ一ケ月六十圓ノ處前文ノ故ヲ以テ授業時間増加シ毎日四時ト相定給料亦更ニ九十圓ヲ増加シ都合百五十圓給與シ且又東京外國語學校ノ授業時間ニ差支ヲ生セサルコトヲ上申シ同年七月裁可ヲ得タリ

同月丙第九號ヲ以テ被害者ヨリ吟味ヲ願出ルモノハ畢竟刑事附帶ノ私訴ト看做スヘキモノナルヲ以テ之ヲ受理シテ其刑事裁判ヲ爲ス時ハ必ス其附帶シテ起ル所ノ民事ノ裁判ヲ與フ可キ旨ヲ達ス

同月丙第十號ヲ以テ偽證或ハ公私文書ノ贋造ニ係ルコトヲ發覺シ刑事裁判ヲ經シ上ハ其文書ハ素ヨリ其裁判所ニ沒入ス可シト雖モ或ハ其文書ノ證憑ヲ

キヲ以テ他ニ詞訟ヲ起ス可キ途方ヲ失ヒ冤枉者ナキヲ保シ難キヲ以テ其文書ヲ没入スルニ當リ其謄本ヲ請求スル者ニハ必ス之ヲ與ヘ且裁判所ニ於テハ右ノ謄本ヲ以テ訴出ルモノアラハ尋常ノ證據ト見ルハ勿論ナレモ若シ他ノ裁判所ニ在テハ一應其没入セシ所ノ裁判所ヘ照會シ其没入セシハ果シテ信ナルヤヲ認メシ上裁判ヲ與フ可キ旨ヲ達ス

同月丁第十七號ヲ以テ内訓ヲ請フノ外諸稟議ノ文書ハ自今必ス其廳ノ院長又ハ所長ヲ經由ス可キ旨ヲ達ス

同月丁第十八號ヲ以テ本年六月丁第十六號達人民ヨリ院省使府縣等ニ對スル詞訟ニシテ上等裁判所ノ判決ニ服セス上告スル者アルキハ自今受理不受理ヲ稟議スヘシト大審院ヘ達シタル旨ヲ東京宮城長崎ノ三上等裁判所ヘ達ス

同月丁第十九號ヲ以テ人民ヨリ院省使府縣等ニ對スル詞訟ニシテ太政官ノ裁令ヲ經テ裁決セシムル者ハ自今本省ヨリ其旨ヲ附記シテ指令ニ及フ可キニ因リ其申渡ヲ爲シタルキハ其旨大審院ヘ通知ス可キ旨ヲ各上等裁判所ニ達ス

同月丁第廿號ヲ以テ人民ヨリ院省使府縣等ニ對スル詞訟ニシテ太政官ノ裁

令ヲ經テ裁決セシムルモノハ時々通知ニ及ヒ且上等裁判所ヨリモ通知スヘキ旨ヲ達シタルニ依リ本人上告スルキハ右ノ通知ヲ以テ受理不受理ヲ識別スヘキ旨ヲ大審院ニ達ス

同年八月丁第廿一號ヲ以テ上告ヲ届出期限ヲ經過シテ實際上告ヲ爲サ、ルヲ以テ控訴書類ヲ上等裁判所ヘ返戻スル費用ハ上等裁判所ニ於テ遞送費用徴収ノ時併テ徴収スルヲ得ヘシト大審院ヘ指令シタル旨ヲ各上等裁判所ヘ達ス

同月丁第廿四號ヲ以テ控訴書類ノ遞送ハ自今通運ニテ遞送ス可キ旨ヲ達ス是レ大審院ヨリ上申シタルヲ以テナリ

同月丙第十一號ヲ以テ開拓使札幌本廳及ヒ根室支廳所轄ニ於テ免許鑑札ヲ受ケス請賣營業スル者並ニ免許鑑札ヲ借受營業スル者ハ金貳拾五圓ノ科料ヲ徴収スヘシト定メタリト同廳ヨリ通牒アリタル旨ヲ達ス

同月丙第十二號ヲ以テ賭博罪ハ犯跡最モ判別シ易キモノタルニ因リ其裁判ハ速決ヲ旨トシ警察官ノ證告檢事ノ公訴判事ノ裁判等可成各三日ヲ過キサル様注意スヘキ旨ヲ達ス

同月明治七年第廿四號達人民ヨリ官府ニ對スル訴訟假規則第二條ニ因リ被

告タル官廳ノ長官若クハ其代人ヲ呼出スハ奏任以上ニ係ル者ト雖モ奏請ヲ
經ルニ及ハサルヲ上申ス同年十月裁可ヲ得タリ

同月民事詞訟ノ土地山林又ハ養惡水或ハ家系身上ニ關シ舊記圖面等私家ニ
藏スル者ト雖モ務メテ之ヲ收拾網羅シテ戶長役場ニ保存セシム可キヲ建
議ス蓋シ各人所藏ノ私證ノミニテ分明ナラサルモニ方リ各村ノ公簿ナル舊
記圖面等ヲ證トシ之ヲ參照シテ裁判ヲ爲サ、ルヲ得ス然ルニ該書類ハ從前
大庄屋等ニ於テ管理セシト雖モ維新以來區戶長ヲ置カレ屢々更正沿革スル
所アリテ新舊引繼ノ際往々散逸スルノミナラス多クハ之ヲ故紙トナシ或ハ
私家ニ隱藏シ狡徒爲メニ其私ヲ逞フスルノ弊アルヲ以テナリ同年十二月稟
議ノ如シト内務省ヘ指令セラレタリトノ裁可ヲ得タリ

同月治罪法草案ヲ進奏ス蓋シ此草案ハ明治八年九月始メテ按テ起セシモノニ
シテ而シテ其文タル佛國法ニ淵源スルヲ以テ我文字ノミニテハ意義ヲ盡サ
、ルノミナラス往々誤謬ヲ生スルヲ少カラサルヲ以テ法律字書編纂ノ舉ア
リ脱稿ノ後續テ進奏セント欲ス

同月治罪法注解一冊印刷成ルヲ以テ之ヲ進奏ス蓋シ該解ハ專ラ立案ノ旨趣
ヲ解明スルヲ以テ審查討論ノ參照ニ供セント欲スルナリ

同月東京裁判所管內伊豆國大島ハ當分裁判所ヲ設クル場合ニ至ラサルヲ以
テ該島ノ刑事懲役三年以下ハ警視出張官ニ專決ヲ聽シ五年以上十年以下及
ヒ三年以下ト雖モ情狀繁難ナルモノハ審案ヲ具シテ決テ東京裁判所長ニ取
ラシメ死罪及ヒ懲役終身ノ者ハ警視廳ニ送致シ定例ノ手續ヲ以テ求刑セシ
メンヲ上申ス同月裁可ヲ得タリ

同月甲第二號ヲ以テ明治九年第五號布達訴訟入費償却規則中差添人ニ係ル
件々ヲ删除シ自今民事詞訟差添人ノ費用ハ訴訟入費トシテ請求スルヲ得サ
ル旨ヲ達ス蓋シ差添人ナルモノハ專ラ自己ノ爲メニスルモノナレハ假令ヒ
裁判上直者トナルモ此費用ヲ相手方ニ償ハシムルノ理ナク且差添人トナル
モノハ多ク訴訟ヲ教唆シテ入費ヲ貪リ或ハ一日數十件ノ訴訟ニ關係シテ非
常ノ金員ヲ得ント欲スルノ徒タルニ過キスト雖モ其本人ニ於テハ已レカ償
却ニ係ラサルヲ以テ此徒ヲシテ差添人トナスノ弊少カラサルヲ以テ同年九
月上申シテ同年十月裁可ヲ得タルヲ以テナリ

同月沖繩縣ハ裁判上裁許用罫紙ヲ用ヒサルヲ聽サンヲ上申ス蓋シ同縣ハ
廢藩已來日猶淺ク且既ニ訴訟用罫紙證券印紙モ發行セサルヲ以テナリ

同月治罪法草案註解第二編六卷上梓ニ付進奏ス

同月丙第廿二號達附屬代言人規程第一項ニ附屬代言人ハ總テ月給ヲ給スト
アレモ無給ニテ之ヲ命スルヲ得ルキハ實際ノ便宜少カラサルヲ以テ相當ノ
月給ヲ給シ又ハ之ヲ給セスト改正センコトヲ上申ス同年十一月裁可ヲ得タリ
同年十一月丁第廿六號ヲ以テ刑事上告ニ關シタル一件書類ヲ大審院へ遞送
ノ時具備セサルモノアルヲ以テ審判上自然淹滞ヲ生スル旨院長ヨリ具申ア
リタルニ因リ向後一切遺漏ナク遞送ス可キ旨ヲ達ス
同月丁第廿八號ヲ以テ明治十一年丁第四十四號達訴訟入費ハ曲者ヨリ直者
ニ辨償スヘキハ當然ノ事ナルニ因リ裁判言渡ノ時必ス曲者ノ辨償ニ歸スヘ
キ旨言渡スヘシト改正シタル旨ヲ達ス
同月諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラレ納完スルコト能ハサル者ハ身代限ヲ以
テ追徴スルノ成規ヲ改メ禁獄ニ換刑センコトヲ上申ス蓋シ身代限ノ際他ノ負
債アルモノハ之カ爲メ追訴ヲ興起スルノミナラス貸借上ノ詞訟ニ係リ義務
者ノ無届ニシテ遅參又ハ不參スル者ハ明治十年第五號公布ニ依リ罰金ニ處
シ而シテ納完スルコト能ハサルキハ身代限ヲ以テ追徴スルニ方リ義務者ニ於テ
ハ罰金ヲ以テスルモ負債ヲ以テスルモ身代限ヲ爲スハ一ナリト爲シ故ラニ
召喚ニ應セサル等ノ弊アルヲ以テナリ依テ十三年三月第十一號ヲ以テ布告

セラル

同月大審院長差支アルキ之カ代理ヲ爲スモノ、儀ニ付上申ス同月其際具上
申稟ス可シトノ裁令ヲ得タリ
同月本年第四十二號布告ヲ以テ拷訊ニ關スル法令ヲ刪除セラレタルニ因リ
右布告ニ背キ拷訊ヲ用ヒタル者問罪ノコトヲ上申ス十三年一月總テ違制ニ問
ヒ因テ死傷ニ致シタルキハ闘歐律ニ照シ重キニ從テ處斷ス可シトノ裁可ヲ
得タリ

同月諸罰則中違犯ヲ訴出ル者ハ其賞トシテ科料金ノ半額又ハ徵收額ノ十分
一ヲ給ストアルノ類犯人無力ニシテ徵收スル能ハサル時訴人ハ賞金給與ノ
コトヲ上申ス蓋シ曩ニ科料金及ヒ收贖々罪金ヨリ支辨ス可シトノ裁可ヲ得タ
リト雖モ完納ト否トニ論ナク罰金ノ半額ヲ給付スルキハ或ハ甲乙同謀シ甲
者故ラニ法ヲ犯シ乙者ハ之ヲ訴ヘ甲者ハ無力ナルヲ以テ罰金ノ一部ヲ納メ
乙者ハ賞金ノ全額ヲ得ントスル等ノ弊アルヲ以テナリ依テ十三年二月實際
徵收金ノ半額又ハ十分一ヲ給付ス可シトノ裁可ヲ得タリ

同月同國人民ノ外國人民ニ對シ外國人民ノ內國人民ニ對スル詞訟ハ自今彼
我共ニ證據金ヲ納メスシテ裁判セシメシコトヲ上申ス蓋シ從前米國蘭國ハ彼

我共ニ證據金ヲ納メ佛國ハ彼我共ニ納メス獨リ英國ニ至ツテハ我國人民ヲシテ證據金ヲ納メシメ而シテ彼國人ハ我裁判所ニ納ムルヲ拒ム抑證據金ハ外國人民ノ内國人民ニ對シ詞訟ヲ起ス者ヲシテ納メシムルモノニシテ歐米各國ノ法律皆然リトス是レ各國獨立權ヲ以テ其人民ヲ保護スル所ナリ然ルニ我國人民内國ニ在テ外國人民ニ對シ證據金ヲ納ムルハ實ニ我國人民ノ不幸ニシテ國權ヲ減殺スルヲ尠カラス況ンヤ我之ヲ納メテ彼之ヲ拒ム者アルヲヤ然リト雖モ現今施行スル處ヲ改正シ外人ヲシテ獨リ證據金ヲ納メシメント欲スルモ我國未ダ治外法權ヲ攘フコト能ハサルヲ以テ之ヲ今日ニ行フ可ラス故ニ彼我共ニ證據金ヲ納メシメサルトキハ内外人民ノ便益ハ勿論公平至當ノ道ト思考スルヲ以テナリ乃チ十三年三月外務省ニ於テ條約談判ヲ了シタル後何分ノ沙汰ニ及フヘシトノ裁令ヲ得タリ

同月大審院職制院長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各廷ニ臨ミ民事事件ヲ聽理スルコトヲ掌ルノ條ニ院長事故アルキハ上席判事ヲ以テ代理セシムルコトヲ得ルノ但書ヲ追加セラレシコトヲ上申ス是レ本月院長代理ノコトハ具上申稟ス可シトノ裁令ヲ得タリト雖モ院長ハ日々人民及ヒ檢事ヨリ上告スル數十件ノ難易ヲ分ツテ其主任ヲ定メ且自ラ起テ處分シ得サル可カラサル事務モ亦往

々之レアリ然ルニ院長事故アル毎ニ具上稟議スルキハ多少ノ差支アルヲ以テナリ乃チ第四十四號ヲ以テ布告セラル

同月丁第廿七號ヲ以テ府縣社以下祠官祠掌ノ等級第四十五號達ヲ以テ廢セラレタリトノ制旨ヲ奉シタル旨ヲ達ス

同年十二月治罪法草案註解第三編印刷成ルヲ以テ之ヲ上申ス

同月丁第十九號ヲ以テ自東京至沖繩縣里程改正内務省ノ稟議ヲ裁可セラレタリトノ制旨ヲ奉シタル旨ヲ達ス

同月司法警察假規則第廿二條時宜ニ依リ第十七條第二十條第廿一條ノ規則ヲ通シテ用ユルコトヲ得ル但書ヲ刪除センコトヲ上申ス蓋シ該規則第二十二條警察官非現行犯ヲ處分スルノ規則ニシテ第十七條第二十條第二十一條ハ現行犯ノ處分ナリ抑非現行犯ノ證ヲ取ルハ特リ糾問判事ニ屬スル者ナリ而シテ當時檢事非現行犯ヲ處分スル場合ニ之ヲ適用セシメシハ實際ノ便宜ヲ計ルニ出ルト雖モ糾問判事警察官ノ權限混淆スルヲ以テナリ

同月代言人規則及代人規則ヲ改正センコトヲ上申ス蓋シ該規則ヲ達シテヨリ爾來屢其節目ヲ修補スト雖モ猶不備欠漏ナシトセス殊ニ從前嚴密ナル檢束ノ方法ナキヨリ代言人タルモノ其本分ノ主義ニ悖ル者等ヲ檢束セント欲シ

テナリ十三年四月裁可ヲ得タリ
同月丙第十四號ヲ以テ明治九年第八十六號ヲ以テ斷罪依證法ヲ布告セラル
ノ後拷訊ヲ用ユル等ノ事ハ固ヨリアル可ラスト雖モ犯人動モスレハ檢察
官ノ訊問ニ際シ苦楚ヲ受タルヲ口實トナシ公庭ニ於テ前供ヲ翻異スルモノ
アリ畢竟犯人ノ狀態怪ムニ足ラスト雖モ猶其所遇ヲ注意ス可キ旨ヲ諭達ス
同月丙第十五號ヲ以テ地方裁判所ニ於テ懲役終身以上ノ者ト思料シ文按證
憑及ヒ擬律按ヲ副フ可シ若シ大審院上等裁判所ニ於テ更ニ律ヲ擬スルキハ
其宣告按ヲモ改正ス可キ旨ヲ達ス
同月丙第十六號ヲ以テ軍人並ニ軍屬常軍兩律ノ犯罪發覺スルキハ法官ニ付
シ其罪ヲ擬定セシメ然ル後軍衙ヘ報告シ其報ノ來ルヲ待テ更ニ法官ヘ求刑
或ハ軍衙ヘ送付スヘシト千葉縣ヘ指令シタル旨ヲ達ス
同月丙第十七號ヲ以テ上告ノ時指出ス罪按並裁判宣告書ハ從來本書一通指
出スモノ少カラス以來ハ正副二通指出ス可キ旨ヲ達ス
同月檢事長ヲ廢シ更ニ勅任檢事ヲ置キ及ヒ判事檢事ノ年俸ヲ改正セシコトヲ
上申ス同月明治十年第四十六號達ヲ廢シ更ニ判事檢事ノ年俸ヲ改定セラレ
タル旨ヲ達セラル

同月領置中盜難ニ罹リタル保釋金ノ處分ヲ上申ス十三年二月賠償ス可シト
ノ裁可ヲ得タリ
十三年一月治罪法草案註解第四編第五編印刷成ルヲ以テ之ヲ上申ス
同月丁第一號ヲ以テ十二年十二月判事檢事年俸改正セラレタルニ依リ本月
ヨリ右改正ニ依リ給與スヘキ旨心得ノ爲メ達ス
同年二月丁第二號ヲ以テ明治八年第六十三號連借證書處分ニ關シタル布告
ハ借用證書中數名連印各自分借ノ員數ヲ記セサル者ハ右連印中失踪又ハ死
亡シテ相續人ナキ等ノモノアルキニ限り現在セル數名ヘ償却ヲ命スヘシト
ノ主旨ナレハ失踪死亡等ノ事故アルニ非スシテ獨リ連借中ノ一名又ハ二名
而已ニ對シ全額ヲ訟求スルコトヲ得ス必ス訴答文例第廿五條負債主連名ノ借
用證文ヲ以テ貸タル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ヘシト云フニ
照準スヘシト熊谷裁判所ヘ内訓シタル旨ヲ達ス
同月丙第一號ヲ以テ諸罰則中違犯者ヲ見届ケ訴出ル者ハ其賞トシテ科料又
ハ罰金ノ半高ヲ給ストアルハ其違犯者無力ニシテ科料又ハ罰金ノ全部ヲ完
納スル能ハサルキハ實地徴収セシ金高ノ半額ヲ給スルモノト心得ヘキ旨ヲ
達ス

同月丙第二號ヲ以テ明治九年達第四十八號達司法警察假規則第二十二條但書ヲ削除シタル旨ヲ達ス蓋右ノ但書ニ依レハ檢事ハ告訴發シ受ケタル時ト雖モ時宜ニ依リ被告人ヲ糺問シテ口書ヲ作り或ハ技術ノ人ヲシテ之ヲ驗察セシメ又ハ被告人ヲ勾留シ若クハ保管スル等ノコトヲ爲ス法得ルモノニシテ今之ヲ廢セシナリ

同月明治十年第四十九號民事上告ノ裁判司法卿ニ於テ允當ナラスト思量スル者ハ檢事ヲシテ再審ヲ求メシムルコトヲ得ルノ布告ヲ廢セラレシコトヲ上申ス蓋シ漸次法律ノ改正ニ從ヒ自然實際ニ適用シ難キヲ以テナリ十四年三月第十九號ヲ以テ該布告ヲ廢セラル

同月民事裁判所權限及ヒ欠席裁判規則民事控訴上告手續判事職制檢事職制陪審撰舉規則補欠陪審員撰舉規則商船内犯罪取扱規則ノ諸草按ヲ上申ス

同年三月禁令前ノ製作ニ係リ菊御紋或ハ菊御紋ニ紛敷キ器物等沒收處分ノ事決上申ス同四月現在其用ニ供スルニ非サル者ハ不問ニ措ク可シトノ裁令ヲ得タリ

同月新聞條例第十六條ニ院省使ノ許可ヲ經スシテ上書建白ヲ載スルコトヲ得ストアリ然ルニ右條例頒布以前ノ上書建白或ハ頒布以前一旦掲載公布シタルモノ又ハ甲新聞ニ於テ許可ヲ受ケテ掲載セシモノヲ乙新聞ニ於テ許可ヲ經スシテ掲載セシ者等ノ處分ヲ稟議ス同四月該條例第十六條ニ問フ可シトノ裁令ヲ得タリ

同月今般法制ノ事務太政官法制部ニ於テ取扱フニ因リ當省雇佛蘭西人ボアソナード同官ヘ雇換ヘタル制旨ヲ奉ス

同月丙第三號ヲ以テ刑事ニ關シ戶長呼出旅費及ヒ糶賣金其他書類遞送費ハ戶長職務取扱諸費中ニ包含スルヲ以テ裁判所ヨリ支辨ス可キモノニアラサル旨内務省ヘ指令セラレタリトノ制旨ヲ奉シタル旨ヲ達ス

同年四月十一年十二月平民帶勳ノ犯罪者ヲ逮捕スルニ勳三等以上ハ勅任ニ準シ六等以上ハ奏任ニ準シ七等以下ハ判任ニ準ス可キノ裁可ヲ得タリト雖モ勳八等ノ非役ノ輩賭博罪等ヲ犯スモノヲ處斷スルキハ士族ニ準シテ處分ス可キヤヲ上申シ同月裁可ヲ得タリ

同月下賜ノ金銀盃等身代限ノ際處分方ノ義稟議ス同年五月身代限財産中ヘ加フ可ラストノ裁令ヲ得タリ

同月丙第五號ヲ以テ司法警察假規則第二十二條但書削除ノ義檢事ヘ内訓シタル旨ヲ達ス

同月丙第六號ヲ以テ證書ヲ詐偽シ金穀ヲ借ル者處斷ノ義大審院諸裁判所へ
 内訓シタル旨ヲ達ス
 同月丁第四號ヲ以テ盜賣ニ係ル土地ハ原主ニ還給ス可シト高知裁判所へ内
 訓シタル旨ヲ達ス
 同月丁第六號ヲ以テ民事詞訟上喚出狀ノ送達ハ可成直チニ本人へ送達ス可
 ク已ムヲ得スシテ戶長役場(戶長役場アラサ)ヲ經由スルキハ其役場迄ノ送達
 費用ハ其呼出ヲ請フ者ヨリ徵收ス可キ旨ヲ達ス
 同月丁第七號ヲ以テ今後本省處務時限ヲ毎年五月一日ヨリ午前八時參省午
 後二時退省七月十一日ヨリ午前八時參省正午十二時退省九月十一日ヨリ午
 前八時參省午後二時退省十一月一日ヨリ午前九時參省午後三時退省ト定
 タル旨ヲ達ス
 同月元老院起按不應爲律例ヲ廢止スルノ下問ニ對シ意見ヲ上陳ス
 同年五月丁第八號ヲ以テ明治七年第十四號達聽訟上原被告ヨリ出ス處ノ證
 據物ハ事件ノ採用不採用ヲ論セス總テ年號月日番號姓名ヲ記載押印スヘシ
 トアレモ公債證書ハ記名押印ノ限ニアラサル旨ヲ達ス
 同月丁第九號ヲ以テ代言人規則改正ニ因リ右ニ關スル事務ハ一切其裁判所

管轄府縣ヨリ繼受ス可キ旨東京京都大坂長崎仙臺ノ五裁所ノ檢事ニ達ス
 同月丁第拾號ヲ以テ民事刑事ノ訴訟表ハ本年ヨリ一周年分ヲ取纏ノ調成ス
 可キ旨ヲ達ス
 同月丙第七號ヲ以テ司法警察假規則第一條告訴告發ヲ爲ス者ハノ下ニ成ル
 可キ丈ケノ六字ヲ加ヘ及ヒ同條ニ但書ヲ追加シタルヲ檢事へ内訓ニ及ヒ
 タル旨ヲ達ス
 同月丙第八號ヲ以テ明治九年第二十五號達代言人取扱手續ヲ改正シタル旨
 ヲ達シ同六月丙第十二號ヲ以テ右手續中免許狀雛形表面右角へ朱書番號ヲ
 増加シタル旨ヲ達ス
 同月丙第九號ヲ以テ代言人規則ヲ改正スト雖モ現今代言免許期限中ノ者ハ
 其期限ヲ終ルマテ免許狀引替ニ及ハス其期限中ハ改正免許狀ヲ受タル者ト
 同ク大審院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言スルヲ得ルト心得可キ旨ヲ達ス
 同月丙第十號ヲ以テ代言人規則改正ニ因リ右ニ關スル事務ハ一切其府縣ヲ
 管轄スル地方裁判所ノ檢事へ引渡ス可キ旨ヲ達ス
 同月勸解上ニテ喚出シタル證人及ヒ引合人ノ旅費日當ハ訴訟入費償却規則
 ニ依ル可キ者ニアラサルヲ以テ其費用ハ召喚ヲ請求シタル者ヨリ實際消費

セシ相當ノ額ヲ拂ハシムルヲ以テ至當トスルヲ上申ス同六月裁可ヲ得タ
 同月地租改正事務出張所ノ呼出ニ應セサル戸長ノ處分ヲ稟議ス同六月官吏
 懲戒例ニ照準シテ處分ス可キノ裁可ヲ得タリ
 同月甲第一號ヲ以テ明治九年甲第一號達代理人規則ヲ改正シタル旨ヲ達ス
 同月甲第二號ヲ以テ明治九年甲第四號達代理人規則ヲ改正シタル旨ヲ達ス蓋
 シ甲第一號達ヲ以テ代理人規則ヲ改正シタルヲ以テナリ
 同年六月平民勳七等以上非役ノ輩賭博等ノ罪ヲ犯シタルキハ總テ士族ニ準
 シテ處分ス可キヤノヲ上申ス同七月裁可ヲ得タリ
 同月法律布令上疑問ノ事ニ關シ第三十五號ヲ以テ官省院使へ達セラレタル
 ニ因リ各裁判所ニ於テ同上ノ疑問アルキハ右達ニ照準シ本省ヲ經テ法制部
 へ質問セシム可シトノ制旨ヲ奉ス
 同月丙第十一號ヲ以テ代言人取扱手續第五條ニ依リ代言人名簿へ登録スヘ
 キ諸件ハ各地方檢事(職務ヲ攝行スルモ)其裁判所へ通知シ又上等裁判所へ
 届出ヘク上等裁判所大審院ノ檢事ハ其裁判所其院へ通知ス可キ旨ヲ達ス
 同月丙第十三號ヲ以テ十二年丙第二號微罪ノ裁判ニシテ檢事ノ上告ニ係ル

原裁判格別不當ノ廉ナキモノハ理由ヲ付セス直ニ却下スヘシトノ達ヲ廢シ
 タル旨ヲ達ス

同月丁第十一號ヲ以テ郡區長へ往復ノ公文ハ自今裁判所本支廳ハ各主務ノ
 課名區裁判所ハ其廳名各檢事ハ其局名ヲ用ユヘキ旨ヲ達ス

裁判所管轄附廢置

本年度中支廳ノ増設ニ係ル者ヲ舉レハ新潟裁判所管内新發田支廳京都裁判
 所管内彦根支廳熊本裁判所管内中津支廳ナリ

又同年度中區裁判所ノ増設ニ係ル者ヲ舉レハ東京裁判所管内木更津區裁判
 所静岡裁判所管内掛川區裁判所神戸裁判所管内明石區裁判所弘前裁判所管
 内五所川原區裁判所福島裁判所管内新庄米澤ノ兩區裁判所函館裁判所管内
 壽都區裁判所ナリ

此レヲ前年度ニ比照スレハ支廳ハ三所ヲ増シ區裁判所ハ六所ヲ増ス即チ本
 年度末現在ノ裁判廳ハ大審院一所上等裁判所四所地方裁判所二十三所同支
 廳四十五所區裁判所百六十九所合セテ二百四十二所ナリ
 更ニ本年度現在ノ廳名ヲ示スヲ左ノ如シ

大 審 院

東京上等裁判所

大坂上等裁判所

宮城上等裁判所

長崎上等裁判所

地方裁判所

本 廳

東京、横濱、水戸、熊谷、名古屋、松本、新潟、静岡、八地方裁判所ヲ管ス

京都、大坂、神戸、金澤、松山、高知、松江、廣島、八地方裁判所ヲ管ス

弘前、仙台、福島、函館、四地方裁判所ヲ管ス

長崎、熊本、鹿児島、三地方裁判所ヲ管ス

支 廳

區裁判所

築 地

巴 町

富士見町

二長町

林 町

千 葉

木更津

八日市場

京

東

千 葉

横 濱

水 戸

熊 谷

前 橋

朽 木

下 妻

土 浦

水 戸

八 王 子

小 田 原

横 濱

浦 和

大 宮

熊 谷

宇 都 宮

朽 木

前 橋

太 田

高 崎

谷

熊

戶

水

濱

横

沼														
新														
本														
相		長			高		新		長		上			
川		岡			田		發		野		田			
沼	靜	相	六	柏	長	糸	高	村	新	飯	長	岩	上	上
津	岡	川	日	崎	岡	魚	田	上	發	山	野	村	田	諏
			町			川		發	田			田		訪

松															
水															
屋															
古															
名															
				岐				岡				安			
				阜				崎				濃			
												津			
大	飯	松	高	御	大	岐	豐	岡	上	四	山	安	一	熱	
町	田	王	山	嵩	垣	阜	橋	崎	野	日	田	濃	ノ	田	
		本								市		津	宮		

島		廣			江				松		知			高	
山					濱	鳥	隱				德				
口					田	取	岐				島				
岩	山	三	尾	廣	濱	鳥	隱	杵	米	松	脇	德	中	高	
國	口	次	道	島	田	取	岐	築	子	江	町	島	村	知	

山		松			澤				金					
高		字				富	福	七						
松		和				山	井	尾						
島														
丸	高	字	大	西	松	魚	富	大	福	輪	七	小	金	津
龜	松	和	洲	條	山	津	山	野	井	島	尾	松	澤	山

函 館				島					福					
				酒	米	山	若	平					盛	
				田	澤	形	松						岡	
壽	江	福	函	酒	米	新	山	若	平	中	白	福	磐	宮
都	刺	山	館	田	澤	庄	形	松		村	河	島	井	古

臺				仙				前				弘			
								秋							
								田							
盛	古	石	大	仙	能	本	大	秋	五	八	青	弘	赤	萩	
岡	川	卷	河	臺	代	庄	曲	田	所	戶	森	前	間	關	
			原						川				關		
									原						

職員附雇外國人

本年度ノ末日即十三年六月三十日司法部内現在ノ職員並十一年度末日ノ現員ニ比較増減ヲ付スルヲ左ノ如シ

鹿兒島						本				
宮崎						中津		大分		
都城	延岡	宮崎	大島	水引	鹿兒島	中津	豆田	竹田	佐伯	大分

熊			崎					長						
			嚴原		福岡		佐賀							
八代	山鹿	人吉	町山口	熊本	嚴原	小倉	久留米	福岡	唐津	佐賀	島原	福江	平戸	長崎

御用掛及雇	等外出仕	判任出仕	裁判所屬	大審院	檢事補	檢事	判事補	判事	司法屬	書記官	卿輔	官職	人員	十二年六月三十日ヨリ	
七三九	一四二七	四九六	一五一	三八	一九	六一六	一八四	一八〇	一一	二	二	増	減		
七七	四五				四	三	九五	三		二					
		九	三							二					
合計													三、八六三	二二九	一四

右職員ハ司法全部ノ總數ニ係ル尙次ノ各表ニ於テ本省及大審院各裁判所等ノ人員ヲ區別ス
 年度末日即六月三十日現員ヲ調査シ本年度ト前年度ト對照シ比較増減ヲナス次ノ各表皆之ニ倣フ

本省

十三年四月局課中議法局及修補書籍ノ二課ヲ廢シ刑事民事議事ノ三局及職員表紀ノ二課ヲ置キ翻譯課ヲ編纂課學校課ヲ生徒課ト改稱ス同年五月檢事局及照査課ヲ廢ス局課ノ廢興ヲ經ルヲ如此ニシテ十三年六月三十日現在ノ省中區分ハ四局七課二掛トス其職員ノ數ハ左ノ如シ

局 課 名		勅任	奏任	判任	等外	御用掛及雇	合計	増減
卿輔	書記官	判事	檢事	屬出仕	判事補	檢事補	一 二 三 四	ヨリ 十月 日三 年六 二
一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等	九 等
十 等	十一 等	十二 等	十三 等	十四 等	十五 等	十六 等	十七 等	十八 等
十九 等	二十 等	二十一 等	二十二 等	二十三 等	二十四 等	二十五 等	二十六 等	二十七 等
二十八 等	二十九 等	三十 等	三十一 等	三十二 等	三十三 等	三十四 等	三十五 等	三十六 等
三十七 等	三十八 等	三十九 等	四十 等	四十一 等	四十二 等	四十三 等	四十四 等	四十五 等
四十六 等	四十七 等	四十八 等	四十九 等	五十 等	五十一 等	五十二 等	五十三 等	五十四 等
五十五 等	五十六 等	五十七 等	五十八 等	五十九 等	六十 等	六十一 等	六十二 等	六十三 等
六十四 等	六十五 等	六十六 等	六十七 等	六十八 等	六十九 等	七十 等	七十一 等	七十二 等
七十三 等	七十四 等	七十五 等	七十六 等	七十七 等	七十八 等	七十九 等	八十 等	八十一 等
八十三 等	八十四 等	八十五 等	八十六 等	八十七 等	八十八 等	八十九 等	九十 等	九十一 等
九十三 等	九十四 等	九十五 等	九十六 等	九十七 等	九十八 等	九十九 等	一百 等	一百一 等
一百三 等	一百四 等	一百五 等	一百六 等	一百七 等	一百八 等	一百九 等	二百 等	二百一 等
二百三 等	二百四 等	二百五 等	二百六 等	二百七 等	二百八 等	二百九 等	三百 等	三百一 等
三百三 等	三百四 等	三百五 等	三百六 等	三百七 等	三百八 等	三百九 等	四百 等	四百一 等
四百三 等	四百四 等	四百五 等	四百六 等	四百七 等	四百八 等	四百九 等	五百 等	五百一 等
五百三 等	五百四 等	五百五 等	五百六 等	五百七 等	五百八 等	五百九 等	六百 等	六百一 等
六百三 等	六百四 等	六百五 等	六百六 等	六百七 等	六百八 等	六百九 等	七百 等	七百一 等
七百三 等	七百四 等	七百五 等	七百六 等	七百七 等	七百八 等	七百九 等	八百 等	八百一 等
八百三 等	八百四 等	八百五 等	八百六 等	八百七 等	八百八 等	八百九 等	九百 等	九百一 等
九百三 等	九百四 等	九百五 等	九百六 等	九百七 等	九百八 等	九百九 等	一千 等	一千一 等
一千三 等	一千四 等	一千五 等	一千六 等	一千七 等	一千八 等	一千九 等	二千 等	二千一 等
二千三 等	二千四 等	二千五 等	二千六 等	二千七 等	二千八 等	二千九 等	三千 等	三千一 等
三千三 等	三千四 等	三千五 等	三千六 等	三千七 等	三千八 等	三千九 等	四千 等	四千一 等
四千三 等	四千四 等	四千五 等	四千六 等	四千七 等	四千八 等	四千九 等	五千 等	五千一 等
五千三 等	五千四 等	五千五 等	五千六 等	五千七 等	五千八 等	五千九 等	六千 等	六千一 等
六千三 等	六千四 等	六千五 等	六千六 等	六千七 等	六千八 等	六千九 等	七千 等	七千一 等
七千三 等	七千四 等	七千五 等	七千六 等	七千七 等	七千八 等	七千九 等	八千 等	八千一 等
八千三 等	八千四 等	八千五 等	八千六 等	八千七 等	八千八 等	八千九 等	九千 等	九千一 等
九千三 等	九千四 等	九千五 等	九千六 等	九千七 等	九千八 等	九千九 等	一萬 等	一萬一 等
一萬三 等	一萬四 等	一萬五 等	一萬六 等	一萬七 等	一萬八 等	一萬九 等	二萬 等	二萬一 等
二萬三 等	二萬四 等	二萬五 等	二萬六 等	二萬七 等	二萬八 等	二萬九 等	三萬 等	三萬一 等
三萬三 等	三萬四 等	三萬五 等	三萬六 等	三萬七 等	三萬八 等	三萬九 等	四萬 等	四萬一 等
四萬三 等	四萬四 等	四萬五 等	四萬六 等	四萬七 等	四萬八 等	四萬九 等	五萬 等	五萬一 等
五萬三 等	五萬四 等	五萬五 等	五萬六 等	五萬七 等	五萬八 等	五萬九 等	六萬 等	六萬一 等
六萬三 等	六萬四 等	六萬五 等	六萬六 等	六萬七 等	六萬八 等	六萬九 等	七萬 等	七萬一 等
七萬三 等	七萬四 等	七萬五 等	七萬六 等	七萬七 等	七萬八 等	七萬九 等	八萬 等	八萬一 等
八萬三 等	八萬四 等	八萬五 等	八萬六 等	八萬七 等	八萬八 等	八萬九 等	九萬 等	九萬一 等
九萬三 等	九萬四 等	九萬五 等	九萬六 等	九萬七 等	九萬八 等	九萬九 等	十萬 等	十萬一 等

本年度中褒賞ヲ蒙リシ官吏貳百八拾五人並外國人壹人アリ其種類左ノ如シ
 精勤ノ功勞アルヲ以テ金圓ヲ賜與セシモノ貳百五拾壹人
 シテ祭資料ヲ賜與セラレシモノ拾壹人
 西南地方騷擾ノ役功勞アルヲ以テ金圓ヲ賜與セラレシモノ八人
 官衙近火ノ際盡力セシヲ以テ慰勞金ヲ賜與セシモノ拾五人ナリ

雇外國人滿期解約ニ付在職中ノ功勞アルヲ以テ金圓ヲ賜與セシモノ壹人ナリ
 又懲戒例ニ依リ處分ヲ受シ官吏貳拾四人アリ其種類左ノ如シ
 罰俸ニ處スルモノ三人
 譴責ノモノ貳拾壹人ナリ

本年度中雇外國人ノ雇期滿限ニ因リ更ニ繼約セシモノハ佛人「ボアソナード」氏米人「ホール」氏佛人「ムーリエー」氏米人「アトルフ」氏同「メイ」氏ノ五人ナリ
 新ニ雇入タルモノハ佛人「アツペール」氏同「ファアル」氏同「アリペー」氏ノ三人ナリ
 雇期滿限ニ因リ解約セシモノハ「ムーリエー」氏「フーク」氏二人ニシテ奉職中ノ功勞ヲ賞シ「ムーリエー」氏ハ金四百圓並ニ臨時調報酬トシテ金三百圓ヲ賜ヒ「フーク」氏ハ金百圓ヲ賜フ
 「ボアソナード」氏ハ十三年三月廿七日太政官へ轉雇セラレ又「ペーチー」氏ハ十

三年四月五日依願解約ノ節別途調報酬トシテ金四百圓ヲ賜ヒ賞與トシテ金四百圓拾三錢ヲ大坂上等裁判所及ヒ京都大坂神戸ノ三裁判所ヨリ贈與ス
 「ボアソナード」氏へ暑間休暇中格別勉勵ニ付賞與金四百圓並臨時調物報酬トシテ金三百圓ヲ賜ヒ
 毎月手當金百圓ヲ増シ即十二年十一月ヨリ三百圓ツ、給與ス
 「ヒール」氏へ雇繼ノ節賞與金四百圓並ニ臨時調物報酬トシテ金三百圓ヲ賜與ス
 且同人ハ十二年八月廿五日雇繼ヨリ給料ヲ減シ貳百五十圓ツ、給與ス
 「アリヘー」氏ハ十二年八月十九日雇繼ヨリ給料ヲ増シ百五十圓ツ、給與ス

十三年六月三十日雇外國人現員左ノ如シ

奉職廳名	國名	人名	職名	給料	雇期限
司法本省	佛蘭西	ギユスターウヅエミ ドール、ボアソナード ドフオンタラビー	法律顧問	月給七百圓 手當三百圓	自明治十二年十一月十五日 至同十五年十一月十四日
同	米利堅	ジョルジ、ワル ス、ヒール	裁判顧問	月給二百五十圓	自明治十二年八月廿五日 至同十三年八月廿四日
同	佛蘭西	ジョルジ、アツペ ール	法律顧問	同 四百圓	自明治十二年十一月廿二日 至同十四年十一月廿一日
同	同	ピエール、ジョセ フ、ムーリエー	法律顧問 譯律師	同 三百圓	自明治十二年八月十日 至同十三年二月九日

合 計	五〇	三	七
前年度ヨリ増減	五		二

十二年十月十六日ニ至リ出仕生徒總員四十七人悉ク卒業シテ官吏ニ登用シ
十三年二月更ニ法學生徒百四十一人ヲ招募シ月俸七圓卒業期限ヲ三年ト改
ム其他教授ノ方法ハ出仕生徒ト異ナルナシ同年六月三十日ノ現員左ノ如シ

學生及吏員	生	徒	教 員	課 業 係
人 員	一四一	外國人 內國人	二一	一〇

恩赦特典

本年度中檢事或ハ警察官ヨリ恩赦ノ特典ヲ乞ヒシ者總數八百八十七人ノ内
常事犯五百五十人國事犯三百三十七人ナリ而シテ減免ニ係ルモノ四百九十一
人内常事犯八百八十六人國事犯ハ三百五人ニシテ其餘ノ三百九十六人ハ不
減免ノモノトス常事犯ノ減免セラレタル者百八十六人ノ原刑ヲ區別スレハ
刑死ノモノ十二人懲役終身ノモノ十四人準流終身ノモノ一人禁獄終身ノモノ

ノ五人懲役十年ノモノ五十人準流十年ノモノ二十一人禁獄十年ノモノ一人
禁錮十年ノモノ二人懲役七年ノモノ三十七人(内存留養)準流七年ノモノ三人
懲役五年ノモノ十人同三年ノモノ九人同二年半ノモノ三人同二年ノモノ八
人同一年半ノモノ一人同一年ノモノ四人同九十日以下ノ者五人ナリ
國事犯ノ減免セラレタル三百五人ノ者ノ原刑ヲ區別スレハ懲役終身ノモノ
二人同十年ノモノ二十四人(内存留養)同七年ノモノ四人(内存留養)同五年ノ
ノ六十四人(内存留養)同三年ノモノ百四十一人(内存留養)同二年半ノモノ
五人同二年ノモノ六十四人(内存留養)同一年半ノモノ一人(存留養)ナリ

國事犯及人民ヨリ官府ニ對スル訴訟

本年度中國事犯罪ニ係ルヲ以テ刑名ヲ具シテ處斷ノ上裁ヲ乞ヒシモノ壹人
ナリ
人民ヨリ官府或ハ區戸長ニ對スル訴訟受理不受理ノ上裁ヲ乞ヒシモノ百五
件ニシテ受理スヘカラサルノ裁令ヲ得タルモノ十二件不受理ノ裁令ヲ得タ
ルモノ二件其他ハ悉ク受理スヘシトノ裁可ヲ得タリ

人民ヨリ官府ニ對スル訴訟ノ裁決案ヲ具上スルモノ五十八件裁可ヲ得サル

モノ二件ニシテ其他ハ皆裁可ヲ得タリ

華族並奏任官犯罪處分及喚問

有勳位非官員ニシテ奏任官取扱ノ者ハ奏任官ノ部分ニ算入ス
 犯罪ノ適律ヲ具上セシモノ華族二人ナリ

民事ニ關シ喚問ヲ上請セシモノ華族一人ナリ
 刑事ニ關シ喚問ヲ上請セシモノ華族三人及奏任五人ナリ

民刑事ニ關シ引合トシテ喚問ヲ上請セシモノ華族一人ナリ

五八四經費附土木
 本年經費豫算總額ハ金百三十四万六千四百八十二圓三十錢ニシテ内百三十一万四千八百圓ハ定額常費ナリ八千三百十二圓三十錢ハ京都裁判所移轉費トシ二万圓ハ四等官以下俸給增加費トシ三千三百七十圓ハ正貨交換差額増費ニシテ共ニ額外費ナリ

本年度ノ支出決算額ハ百三十一万四千二百九十五圓四十四錢一厘ニシテ豫算額ヨリ減スルコト千八百八十六圓八十五錢九厘ナリ又本年度經費豫算額ヲ以テ前年度ノ豫算額ニ比較スレハ金拾壹万千七百四拾五圓八錢三厘ヲ超過シ本年度ノ決算額ニ比較スレハ金拾壹万五千七百三拾七圓九拾三錢三厘ヲ超過ス乃各費目ニ就キ兩年度ノ増減ヲ比較スルコト左ノ如シ

年度	定額		常費		外額		合計	
	十二年度		十一年度		十二年度		十一年度	
	増	減	増	減	増	減	増	減
俸給	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
與給	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
國內旅費	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
廳中費	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
厩費	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
營繕費	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
外國人諸費	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
國內生徒費	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
外國生徒費	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
債償	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55
合計	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55	4,682,555.55

右各費目ニ就キ増減ノ因由ヲ畧記スルヲ左ノ如シ
 俸給ノ増加セシハ前年度ニ於テ裁判所ノ増設増員アリシモ尙本年度ニ至リ
 官吏ノ増員及四等官以下吏員ノ増給等アルニ因ル
 給與ノ増加セシハ滿年賜金其他ノ賞與交際手當等並寫字雇及給仕小使等ノ
 増員増給アルニ因ル

内國旅費ノ減セシハ逐年各廳ノ秩序自ヲ整理スルニ隨ヒ官吏ノ出京出張及
 轉移在勤等ノ減少セシニ由ル

廳中費ノ増加セシハ事務ノ繁劇ニ因リ新規購求品ノ増加且物價騰貴等ニ由
 ル

廩費ノ減少セシハ馬車器械破損減少及廩廢止ノ場所アルニ由ル

營繕費ノ増加セシハ物價騰貴ニ際シ新築並修繕ノ箇所アルニ由ル

外國人諸費ノ減少セシハ外國人雇滿期解約ノ者アルニ由ル

内國生徒費ノ増加セシハ前年度ハ欠員アリテ補欠員ナキモ本年度ハ生徒増
 員アルニ由ル

外國生徒費ノ増加セシハ海外留學生ノ疾病者等アルニ由ル

又本年度ノ經費ヲ各廳ニ區分スルヲ左ノ如シ

廳名	本省		大審院		東京上等裁判所		大坂上等裁判所		宮城上等裁判所		長崎上等裁判所		東京裁判所		京都裁判所		大坂裁判所		横濱裁判所		新潟裁判所		
	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	
俸給	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	1,550,000	2,180,000	
國內旅費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
廳中費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
廩費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
營繕費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
外國人諸費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
國內生徒費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
國外生徒費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
賃價	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
合計	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	
増減																							

廳名	給俸		與給		國內旅費		廳中費		厩費		管營費		國外諸費		國內生徒費		國外生徒費		償戻		合計		増減	
	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外		
神戸裁判所	37,000	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
函館裁判所	45,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
長崎裁判所	30,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
水戸裁判所	25,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
熊谷裁判所	20,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
静岡裁判所	15,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
弘前裁判所	10,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
仙臺裁判所	8,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
福島裁判所	7,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
名古屋裁判所	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
松本裁判所	5,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

合計	金澤裁判所		松江裁判所		松山裁判所		高知裁判所		廣島裁判所		熊本裁判所		鹿児島裁判所	
	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外	定額	額外
額外	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
定額	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
合計	20,000	2,000	20,000	2,000	20,000	2,000	20,000	2,000	20,000	2,000	20,000	2,000	20,000	2,000

右各廳ノ經費増減ノ因由ヲ略記スルノ如シ
 本省定額費ノ増加セシハ吏員及法學生徒俸給等ノ増加其他購求品アルニ由
 リ額外費ノ増加セシハ特別賜金及留學生歸朝旅費等ニ由ル
 大審院定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加新築修繕等ニ由ル額外費ノ増
 加セシハ祭資料及賞與金等アルニ由ル

東京上等裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加新築修繕等ニ由リ額外費ノ増加セシハ祭資料ノ給與アルニ由ル
 大坂上等裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加ニ由リ額外費ノ増加セシハ新築修繕及雇外國人歸國旅費等ニ由ル
 宮城上等裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加ニ由リ額外費ノ減少セシハ祭資料ナキニ由ル
 長崎上等裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加ニ由リ額外費ノ減少セシハ接待費ヲ要セサルニ由ル
 東京裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加免官者ノ滿年賜金並ニ木更津區裁判所新築等ニ由リ額外費ノ増加セシハ祭資料賜與ニ由ル
 京都裁判所定額費ノ減少セシハ吏員及俸給ノ減少ニ由リ額外費ノ増加セシハ本廳移轉ニ付營繕スルニ由ル
 大坂裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加營繕等ニ由リ額外費ノ増加セシハ祭資料賜與ニ由ル
 横濱裁判所定額費ノ減少セシハ俸給ノ増加寡少且購求品ナキニ由リ額外費ノ増加セシハ物價騰貴ニ付自然廳中費ヲ増額スルニ由ル

新潟裁判所定額費ノ増加スルハ吏員及俸給ノ増加外國人接待所ノ修繕等ニ由リ額外費ノ増加セシハ接待費ヲ要スルニ由ル
 神戸裁判所定額費ノ増加ハ吏員及俸給ノ増加ニ由リ額外費ノ増加ハ新築營繕等ニ由ル
 函館裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給購求品増加並壽都區裁判所新築ニ由リ額外費ノ増加セシハ火災ニ罹リタル官舎ノ營繕ニ由ル
 長崎裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加並物價騰貴ノ爲新調品ニ付増費ヲ要スルニ由リ額外費ノ増加セシハ亦新調品騰貴ニ由ル
 水戸裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加其他營繕等ニ由リ額外費ノ増加セシハ盜難ニ罹リタル償戻金ニ由ル
 熊谷裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加並浦和支廳官舎新築費ニ由リ額外費ノ増加セシハ祭資料賜與ニ由ル
 静岡裁判所定額費ノ減少セシハ本年度ハ新築修繕ナキニ由リ額外費ノ増加セシハ祭資料賜與ニ由ル
 弘前裁判所定額費ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加並物價騰貴ノ爲購求品ノ増費ニ由ル

仙臺裁判所定額ノ減少セシハ書籍其他購求品寡少ナルニ由リ額外費ノ増加セシハ新築及修繕ニ由ル
 福島裁判所定額ノ減少セシハ本年度ノ營繕少ナキニ由ル
 名古屋裁判所定額ノ減少セシハ麻廢止且諸營繕等寡少ナルニ由リ額外ノ増加ハ新築修繕等アルニ由ル
 松本裁判所定額ノ減少セシハ官吏出張事件及新築修繕等ノ減少ニ由リ額外費ノ減少セシハ増築新築等減却スルニ由ル
 金澤裁判所定額ノ減少セシハ營繕費ノ寡少スルニ由リ額外ノ増加セシハ死亡者へ祭資料ヲ賜與シ且新築修繕等ニ由ル
 松江裁判所定額費ノ増加セシハ吏員並俸給ノ増加且購求品ノ物價騰貴ニ由リ額外費ノ増加セシハ新築修繕アルニ由ル
 松山裁判所定額ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加免職者滿年資金及旅費ヲ要スルニ由ル額外費ノ増加セシハ病死者ノ祭資料賜與ニ由ル
 高知裁判所定額ノ増加セシハ吏員及俸給ノ増加並書籍其他購求品ノ物價騰貴ニ由リ額外費ノ減少セシハ祭資料無キニ由ル
 廣島裁判所定額ノ減少セシハ新築修繕等減少スルニ由リ額外費ノ増加セシ

ハ病死者祭資料アルニ由ル
 熊本裁判所定額ノ増加セシハ物價騰貴ニ依リ自然常費ヲ増殖スルニ由ル
 鹿兒島裁判所定額ノ減少セシハ諸營繕減寡スルニ由ル
 又本省並大審院諸裁判所本年度末ノ現員ト經費ヲ對照スルヲ左ノ如シ

廳名	人員	經費
本省	三〇〇	二五〇七八一
大審院	一〇六	七〇、三五一
東京上等裁判所	一〇八	五一、二三八
大坂上等裁判所	一三一	五五、七九一
宮城上等裁判所	五一	一六、五七二
長崎上等裁判所	五七	二〇、五〇五
東京裁判所	二八五	七三、九六五
京都裁判所	一八三	五八、三四二
大坂裁判所	二二六	六九、〇三一
橫濱裁判所	九三	二八、三三一

新瀉	新潟裁判所	一三八	三六、五三七	四四〇
神戶	神戶裁判所	一八九	五〇、七六六	一一八
函館	函館裁判所	四八	二八、二四九	一六四
長崎	長崎裁判所	一三三	四九、二〇九	〇六四
水戸	水戸裁判所	一一〇	二八、三六七	七五〇
熊谷	熊谷裁判所	一二六	三四、二二六	九二五
静岡	静岡裁判所	一四一	三二、二八二	八四五
弘前	弘前裁判所	九九	二五、五〇九	二二六
仙臺	仙臺裁判所	一一四	三三、二三五	二〇〇
福島	福島裁判所	一六五	三五、九五三	二二〇
名古屋	名古屋裁判所	一九二	五七、四六七	三四七
松本	松本裁判所	八七	二三、三四〇	二五〇
金澤	金澤裁判所	一五一	四一、三六一	三七八
松江	松江裁判所	一〇八	三一、八三八	一〇八
松山	松山裁判所	九〇	二六、〇四四	二五〇

高知	高知裁判所	一一七	二九、三五七	九九六
廣島	廣島裁判所	一〇四	三二、二五一	三九五
熊本	熊本裁判所	一三六	三一、九一三	四三〇
鹿兒島	鹿兒島裁判所	七五	二二、四七二	二九一
合計		三八六三	一、三四五、二九五	四四一

書籍

翻譯編纂ノ書籍ヲ刊行スル事務ハ編纂課ニ於テ擔當シテ都テ法律ニ係ル書類ヲ印刷上梓スルモノナリ即チ同課ニ於テ本年度中刊行ノ功ヲ竣フル書目左ノ如シ

刊行書目	冊數
類聚法規現行	第六七卷 二冊
佛國訴訟法原論	第三卷 一冊

佛國民法財產篇講義	一冊
佛國常用法	一冊
各國刑法類纂	一冊
獨逸民法通論	一冊
伊太利商法	一冊
佛國民法覆義	一冊
法律大意講義	一冊
下卷	
第三	

翻譯及ヒ編纂ノ兩課ニ於テ本年度中翻譯編纂シタル書目左ノ如シ

英國律法要訣	二冊
英國治罪手續	四冊
亞米利加合衆國治法草案	七冊
米國刑法抄譯陪審法	四冊
英國陪審畧解	一冊

翻譯												翻譯																	
佛國政法論	四十冊	公證人規則	四冊	佛國商法說略	二冊	噠馬國民法	四冊	英佛民法異同辨	一冊	訴訟法字書	四冊	佛國常用法	四冊	佛國商法註解	五冊	伊佛民法比較論評	三冊	以太利國民法	三冊	佛國民法覆義	五十冊	亞米利加合衆國ルシヤンヌ州民法	四冊	佛國治罪法大全抄譯陪審論	四冊	醫家斷訟學	六冊	英國民事犯法要說	四冊

纂		編	
現行獨逸帝國治罪法	二冊	魯國民法	六冊
魯國刑法	十一冊	沿革類聚法規續篇目錄	一冊
現行類聚法規續篇	二冊	德川禁令考	五冊
全國民事慣例類集	二冊		

各裁判所ノ新築本年度ノ起工ニ係リ一所ニシテ經費金額千圓以上ニ及フ者左ノ如シ

廳名	在廳地名	建築種類	總坪	起工月日	落成月日	經費金額
東京裁判所 木更津支廳	上總國豐岡郡木更津村	木造	百貳拾坪	十二年九月廿日	十二年十二月廿日	貳千五百圓
松江裁判所 濱田支廳	石見國那賀郡原井村	木造	百四拾四坪	十二年十一月一日	十三年三月十七日	四千百拾圓九拾七錢

廳名	在廳地名	建築種類	總坪	起工月日	落成月日	經費金額
名古屋裁判所 岡崎支廳	三河國額田郡岡崎康生町	木造	百四拾坪	十二年十二月一日	十三年六月十日	三千五百圓
同廳上野區裁判所	伊賀國阿拜郡上野中町	木造	百六坪	十二年十二月十五日	十三年四月十日	千八百圓
金澤裁判所	加賀國金澤區	木造	三百七拾二坪五合	十三年二月一日	十三年六月三十日	九千九百九拾六圓九拾貳錢四厘
京都裁判所	京都上京區桑原町	木造	八百四拾六坪九勺	十二年十一月十六日	十三年六月三十日	壹方四千七百七拾九圓七拾八錢五厘
名古屋裁判所 豐橋區裁判所	三河國握美郡豐橋宮下町	木造	百拾二坪五合	十二年十一月廿日	十三年六月三十日	千八百圓
大坂上等裁判所	攝津國大坂西區土佐堀通四丁目	木造	百貳拾三坪	十三年五月一日	十三年六月三十日	貳千七百四拾五圓六拾錢
同廳外國人接待所並官舎	攝津國大坂西區江戶堀北通一丁目	木造	百六拾三坪五合	十三年五月一日	十三年六月三十日	三千圓
大坂裁判所	攝津國大坂中ノ島一丁目	木造	百三拾坪五合	十三年五月一日	十三年六月三十日	三千貳百六拾壹圓六拾壹錢五厘
同廳外國人接待所並官舎	攝津國大坂北區堂島濱通三丁目	木造	百拾二坪六合二勺	十三年五月一日	十三年六月三十日	貳千三百五拾圓
神戶外國人接待所並官舎	攝津國神戶區坂本村	木造	七拾坪五合	十三年四月廿七日	十三年六月三十日	貳千六百六拾壹圓六拾九錢壹厘
函館外國人接待所並官舎	渡島國龜田郡函館區	木造	百七拾五坪	十三年四月廿七日	十三年六月三十日	四千九百七拾五圓四錢七厘
合計	廳數十三ヶ所		坪數貳千六百拾六坪二合壹勺			金五万七千四百八拾壹圓六拾三錢貳厘

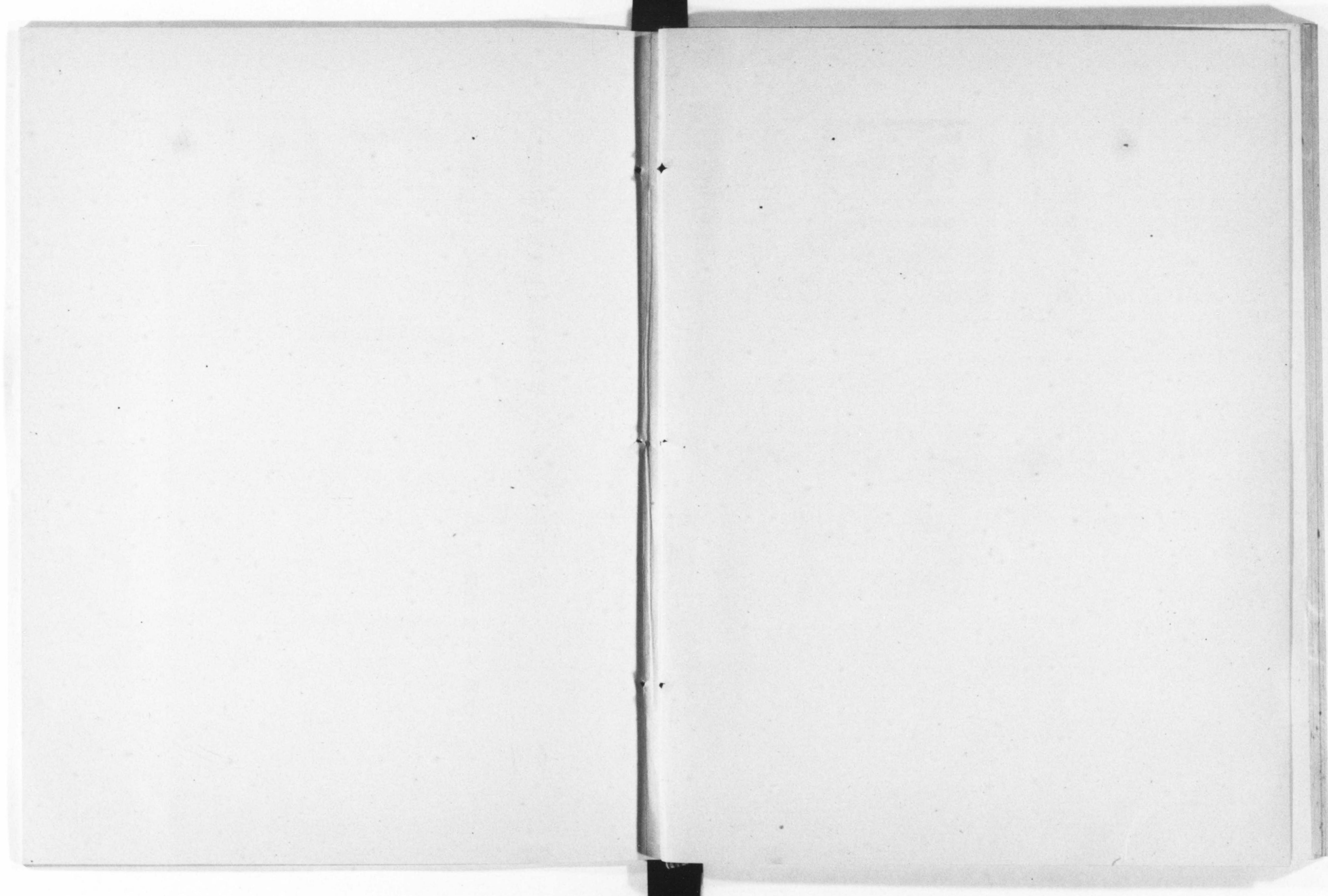
代理人

代理人ハ本年度中新タニ免狀ヲ與ヘシモノ二百七十六人前年度ヨリ繼續シ

テ營業スルモノ六百四十六人ナリ右之内廢業セシ者四十一人除名セシ者六人死亡セシモノ九人任官セシモノ三人アリ即チ現員ハ百六十三人ナリト雖明治十三年五月十三日司法省甲第一號布達ヲ以テ代言人規則ヲ改正シ一ノ免狀ヲ以テ諸裁判所ニ於テ營業ヲ爲スヲ得タルカ故ニ兩裁判所兼業タリシモノ百十九人ヲ除キ明治十三年六月三十日ノ實數ハ七百四十四人ニシテ停業ニ處セラレシモノ二人アリ而シテ十三年六月三十日各裁判所代言人ノ數左ノ如シ

廳	名	人	員
東京裁判所			一一六
水戸裁判所			二一
横濱裁判所			五
熊谷裁判所			一三
名古屋裁判所			七一
静岡裁判所			二七
新潟裁判所			一八

松本裁判所			一四
京都裁判所			三一
大坂裁判所			九九
神戸裁判所			六〇
金澤裁判所			一七
松山裁判所			九
高知裁判所			二九
松江裁判所			二二
廣島裁判所			三四
弘前裁判所			一六
仙臺裁判所			三六
福島裁判所			四六
函館裁判所			六
開拓使札幌本廳			二
長崎裁判所			三六



司法省第六處務年報編纂功竣ル乃チ之ヲ進呈ス謹奏

明治十六年七月

司法卿大木喬任

凡例

- 一 本書ハ會計年度ニ從テ編纂ス
- 一 表紀ニ係ル者ハ數字ヲ以テ之ヲ記シ、ヲ加ヘテ以テ千位ヲ分ツ
- 一 同上金數ハ畫線ヲ引テ殊ニ圓位ヲ示シ或ハ又、ヲ附シテ圓位ヲ分ツ
- 一 同上數中○ヲ附スル者ハ零數ナリ

司法省第六處務年報目次

法律

裁判所管轄附廢置

職員附雇外國人

法學專門生徒

恩赦特典

國事犯及行政裁判

華族並奏任官犯罪處分及民刑事件ノ喚問

經費附土木

書籍

代言人

司法省第六處務年報

法律

明治十三年七月丁第十三號ヲ以テ戸長ハ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スル
モノニシテ利息ノ制限ニ超ルト否トニ關セストノコトヲ熊本縣へ説明セシト
法制部ヨリ通達アリタル旨ヲ達ス

同月丙第十四號ヲ以テ代言人取扱手續中第十一條改正ノ旨ヲ達ス

同月丁第十四號ヲ以テ獨乙國政府ニ於テ在日本獨逸國領事ノ職務管區及ヒ
裁判權管區ヲ改正シタリト外務省ヨリ通牒アリタル旨ヲ達ス

同月丁第十五號ヲ以テ各裁判所ニ於テ法律布令上ノ疑問アルトキハ今般第
三十五號布達ニ照準シ本省ヲ經テ法制部へ質問スヘシトノ制旨ヲ奉シタル
旨ヲ達ス

同月丁第十六號ヲ以テ控訴書類ヲ大審院へ遞送スルハ通運ヲ以テスヘキ旨
曩ニ達シタリト雖モ自今郵便通運其他便宜ノ方法ヲ以テ送致スヘキ旨上等
裁判所及函館裁判所へ達ス

同年八月各地方ニ漸次檢事ヲ置キ地方官ヨリ該事務ヲ交收センコトヲ上申ス

H600
S 1
7 6

是現今三府二縣ヲ除クノ外ハ明治七年檢事事務ヲ總テ地方官ヘ委任セシヲ以テ治罪法實施ノ期ニ際シ一時ニ各地方ニ檢事ヲ置トキハ多少紛雜ヲ免レサルヲ以テナリ乃チ同年第四十六號ヲ以テ布達セラル

同月家督相續ニ關シ其親屬中協議整ハサルキハ裁判所ノ判決ヲ受ケタル後地方官ニ出願スヘシトノ議ヲ上申ス同年九月裁可ヲ得タリ

同月丁第十七號ヲ以テ明治九年第六十六號達區裁判所假規則第八條但書疾病事故等ニテ已ヲ得サルキハ代人ヲ出サシメ一事件ヲ限リ受任スヘシト改正シタル旨ヲ達ス

同年九月丁第十八號ヲ以テ本省刊行ノ書籍ハ以來各廳備用トシテ出版都度相渡スヘキ旨ヲ達ス

同月丁第十九號ヲ以テ法律布令上檢事ノ疑問ハ各府縣同様取計フヘシトノ制旨ヲ奉シタル旨ヲ達ス

同月丁第廿號ヲ以テ法律布令上ノ質問ニ對スル法制部ノ回答ハ立按ノ主旨ニ原ツキ辨明スルモノニシテ法律ノ能力ハ無之モノナルヤノコトヲ上申シテ裁可ヲ得タル旨ヲ達ス

同月丁第廿一號ヲ以テ製茶砂糖反物薪炭等ノ物品ヲ以テ限月若クハ現場賣

買類似ノ商業ヲ爲ス者アルキハ總テ本年第廿一號布告ニ依リ處分スヘシト使府縣ヘ布達セラレタリトノ制旨ヲ奉シタル旨ヲ達ス

同年十月連帶ノ負債者中一人身代限トナリタルキハ定約期限未滿ト雖モ債主ハ右連帶者ニ對シ貸金額ヲ請求スルヲ得ヘキヤノコトヲ上申ス同年十二月裁可ヲ得タリ

同月小笠原島ヲ東京府ノ管轄ニ屬セラレタルニ因リ裁判事務モ當分ノ内從前ノ權限ヲ以テ該地東京府出張所ヘ委任センコトヲ上申ス同月裁可ヲ得タリ

同月人民ヨリ諸官廳ヘ送達スル願伺書等區戶長ノ與書與印ヲ要スヘキモノハ區戶長ニ於テ其趣意ニ拘ハラス與書與印シ若シ別ニ意見アルキハ其意見ヲ添申セシムヘキコトヲ上申ス十五年四月裁可ヲ得タリ

同月丁第廿三號ヲ以テ從來刑事審理表中上告ニ係ル件ハ未濟ノ部ニ記入セル處以來民事審理表ト同ク既濟ノ部ヘ記入スヘキ旨ヲ達ス

同月違警罪裁判ハ三府五港ノ市區ノ治安裁判所ノ外ハ當分府縣ヘ委任セラレンコトヲ上申ス蓋シ該犯罪タル何レモ極微ノモノナルヲ以テ盡ク之ヲ治罪法ニ依リ違警罪裁判所ニ於テ裁判セシムルキハ實際官民ノ便ヲ缺クコト少ナカラサルヲ以テナリ乃チ同年第四十八號ヲ以テ布告セラル

同月本年九月第四十六號布達ニ基キ檢事ニ屬スル事務地方官ヨリ交收スルノ際始審裁判所ニ限リ一人乃至二人ノ檢事ヲ置キ事務ノ繁簡ニ依リ其地方警部中ヨリ數名ヲ選ヒ檢事補ヲ兼任セシメ而ル後漸次檢事若ハ檢事補ヲ專任セシメンコトヲ上申ス乃チ同年第五十九號ヲ以テ布達セラル

同月丁第廿四號ヲ以テ明治十一年丁第十二號達各廳官金取締條規ヲ廢シタルニ因リ各廳ニ於テ便宜ノ方法ヲ設ケ官金ノ取締ヲ爲シ尙シ紛失盜難等ニ係ルキハ會計主任官ハ勿論宿直吏員ト雖モ其情狀ニ依リ相當ノ處分ニ及ブヘキ旨ヲ達ス

同年十一月丙第十五號ヲ以テ大審院へ上告中ニ係ル者又罪ヲ犯シ及ヒ餘罪ノ發覺シタルキハ同院判決ノ後チ後發罪ト判決罪トヲ比較シ二罪俱發例ニ照シテ處斷ス可キ旨ヲ達ス

同月民事裁判上書記ノ誤寫ニ因テ生スル失費ハ其奉任スル所ノ廳費ヲ以テ償還セシメンコトヲ上申ス同年十二月裁可ヲ得タリ

同月丙第十六號ヲ以テ明治十二年丙第七號東京大學法學部ニ於テ卒業ノ者代言營業出願手續ノ達改正ノ旨ヲ達ス

同月丁第廿五號ヲ以テ本年丁第八號聽訟上原被ヨリ差出ス所ノ証據物件中

公債証書地券等ハ記名檢印ノ限ニアラストノ達改正ノ旨ヲ達ス

同年十二月始審裁判所以下所長ノ任免ヲ委任セラレンコトヲ上申ス同月一々申奏ヲ經ヘシトノ裁令ヲ得タリ

同月公証人規則草按編纂成ルヲ以テ之ヲ上申ス

同月丙第十七號ヲ以テ本省藏版佛國政典以下四十一部自今版權ヲ解キタル旨ヲ達ス

同月丙第十八號ヲ以テ代言人既ニ免許ヲ得ルト雖モ本年甲第一號布達改正規則第四條ニ抵觸スル者ハ該免許期限後引續營業ヲ許サ、ルニ因リ右出願者アルキハ其抵觸ノ有無ヲ精査スヘキ旨ヲ達ス

同月本省職制並事務章程改正セラレタルノ制旨ヲ奉ス

同月丁第廿六號ヲ以テ當省職制並事務章程改正シタル旨ヲ達ス

同月丁第廿七號ヲ以テ等外吏以下懲戒例ニ依リ處分ノ際詞令書ハ司法省ノ名ヲ署スヘキ旨ヲ達ス

同月丁第廿八號ヲ以テ裁判所書記民事裁判上呼出人ノ地名人名等ヲ誤寫スルニ因テ生スル失費ハ廳費ヲ以テ償却センコトヲ上申シテ裁可ヲ得タル旨ヲ達ス

十四年一月甲第一號ヲ以テ從前吟味願ト稱スル訴ヲ廢スル旨ヲ達ス蓋シ該
訴ハ實際告訴ノ性質ヲ具フル者少ク且當時ニ在テハ被害者ノ權利ヲ伸張ス
ルニ容易ナルノミナラス亦檢事ノ犯罪ヲ知ルノ一端トナリタレモ今日ニ至
テハ糾問判事檢事警察官等ニ告訴スルヲ得ルニ因リ曩キニ上申シテ裁令ヲ
得タルヲ以テナリ

同月刑事証人旅費日當支給ハ府縣廳又ハ郡區役所ニ於テ假渡シセシメン
ト上申シテ裁可ヲ得タリ是レ治罪法ニ於テ右証人費用ヲ被告人ト官トニテ
負擔スヘキ二種ノ區別アレモ治罪法第百九十條ノ場合ハ未タ其費用ノ負擔
者ヲ定メサルヲ以テナリ

同月丙第一號ヲ以テ司法警察假規則第三條第二項警察使並地方警部及第三
章警察使并警部ト改メ又第八條ヨリ第十一條ニ至ル各條中警部ノ上ニ警察
使又ハノ五字ヲ加フル旨ヲ達ス

同月明治十三年當省甲第一號達代言人規則第四條第四項ヲ懲役禁獄一年以
上ノ刑ニ處セラレタル者ト改正スヘシトノ制旨ヲ奉ス

同月府下囚人糾問事務ハ自今都テ東京裁判所ニ於テ取扱フヘシトノ制旨ヲ
奉ス

同月甲第二號ヲ以テ代言人規則第四條第四項改正ノ旨ヲ達ス

同月丙第二號ヲ以テ明治十三年丁第二十六號達司法省職制中檢事并檢事補
ノ職制ヲ定メラル、ト雖モ明治十年丁第十四號達檢事ノ章程ハ現存ノ旨ヲ
達ス

同二月十年第四十九號民刑事ノ上告シテ既ニ裁判ヲ經タル者司法卿其裁判
ヲ允當ナラスト思量スル者アルキハ檢事ヲシテ再審ヲ求メシムルヲ得ヘ
キノ布告ヲ廢止セラレント上申ス蓋シ爾後法律ノ改正ニ從ヒ自然實際ニ
適用スルヲ得サルヲ以テナリ乃チ同年第十九號ヲ以テ右廢止ノ旨布告セ
ラル

同月越前若狹兩國ノ裁判管轄ヲ專ラ金澤裁判所ニ屬セラレント上申ス是
該兩國ハ從前石川滋賀兩縣ニ於テ分管セシヲ以テ裁判管轄モ京都金澤兩裁
判所ニ分屬セシカ今般福井縣ヲ置レ右兩國ヲ管轄セシメラル、ヲ以テナリ
乃チ同年第二十一號ヲ以テ布告セラル

同月治罪法ニ據リ控訴裁判所始審裁判所治安裁判所ノ位置名稱及ヒ管轄區
畫ノ方案ヲ草シテ上申シ違警罪裁判ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣
警察署又ハ警察分署ニ於テ裁判セシメント上申シ附奏ス既ニシテ右方案ヲ採用

セラレ且官民便宜ノ爲メ當分始審裁判所ハ悉ク重罪裁判所ヲ開キ治安裁判所ハ輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限り其裁判ヲ爲シ得ヘキモノト心得ヘキノ裁令ヲ得タリ乃チ同年第四十八號第五十三號第五十四號等ヲ以テ漸次ニ之ヲ布告セララル

同月丙第四號ヲ以テ司法省附屬代言人廢止ノ旨ヲ達ス

同月丙第五號ヲ以テ附屬代言人ヲ廢スト雖代言人仕掛リノ事件ヲ代人トシテ取扱フハ苦シカラスト舊附屬代言人タリシ者ヘ達シタル旨ヲ達ス

同三月甲第三號ヲ以テ民刑事ノ裁判上ニ係リ當省ヘ對シ歎願或ハ再審願ト稱シ書面ヲ差出スモノハ指令ニ及ハサルノミナラス却下ノ手續ヲモ爲サシル旨ヲ達ス右ハ法律ニ戻リタルノミナラス民間大ニ弊害アルヲ以テ曩キニ上申シテ裁令ヲ得タルヲ以テナリ

同月治罪法第七十三條重罪裁判所陪席判事ハ當分二名以上ト定メラレンコトヲ上申ス乃チ同年第四十六號ヲ以テ布告セララル

同月治罪法第一百一條第二項ノ場合ニ於テ物件ヲ携帶シタル時ノミナラス其舉動犯人ト思料スベキ者アルキハ猶現行犯ニ準シテ處分セシメンコトヲ上申ス然ラザレハ實際不都合ヲ醸生スルコト尠ナカラサルヲ以テナリ乃チ同年第

四十六號ヲ以テ布告セララル

同月巡查ヲシテ公廷ヲ看護セシメンコトヲ上申ス是レ治罪法第二百六十五條并二百七十二條ニ據リ巡查ヲ守卒トシテ拘留ノ被告人ヲ看護セシメ且公廷一般ノ取締ニ供スルガ爲メナリ

治安裁判所ヲ除ク

乃チ第八十六號ヲ以テ布告セララル

同月丙第六號ヲ以テ贓金品及ヒ罪囚所持金ヲ官廳ニテ領置中盜難ニ罹リ又ハ該金品ヲ送致中遺失シタル者ハ官ヨリ辨償スベキ旨ヲ達ス是レ曩キニ上申シテ裁令ヲ得タルヲ以テナリ

同年四月伊豆國七島裁判事務ハ當分民事ハ金額百圓以下及ヒ勸解刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ該島官吏ヘ委任シ民事金額百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト定メラレンコトヲ上申ス是レ該島ハ裁判件數モ極メテ僅少ニシテ未タ裁判所ヲ設ルノ狀況ニ至ラサルヲ以テナリ乃チ同年第五十七號ヲ以テ布告セララル

同月小笠原島裁判事務ハ當分東京府出張所ニテ治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及ヒ重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ所轄ト定メラレンコトヲ上申ス是レ畧ホ伊豆七島ト情況ヲ同フスルヲ以テナリ第五十六號ヲ以テ布告セララル

同月丙第七號ヲ以テ盜犯贓金ヲ以テ購求シタル物品ハ事主へ還給シ若シ三年ヲ經テ仍ホ事主知レサルハ官沒ス可キ旨ヲ達ス是レ曩ニ上申シテ裁令ヲ得タルヲ以テナリ

同月勾引シタル被告人ハ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限り裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ留置センコトヲ上申ス是レ被告人訊問期限ハ治罪法第百二十二條第二項ニ制限アリト雖モ豫審判事勾引狀ヲ以テ勾引セシ被告人到着時間ト豫審判事々務ノ都合ヲ以テ即時訊問スルヲ得サル場合ヲ定メサルヲ以テナリ乃チ第五十九號ヲ以テ布告セラル

同月治罪法第七十三條陪席判事第七十九條補充判事撰任順序ハ當分裁判所長又ハ院長ヲシテ臨時選任セシメンコトヲ上申ス是レ實際支障少カラサルヲ以テナリ乃チ第五十五號ヲ以テ布告セラル
同年五月治罪法第百六十八條第百七十二條ニ於テ治安判事ニ囑托スルコトヲ許シタル處分ハ當分其地ノ司法警察官ニモ囑托スルヲ得セシメンコトヲ上申ス是レ豫審判事臨檢家宅搜索ノ事ヲ治安判事ニノミ囑托スルコトヲ得セシムルモ實際本條ノ目的ヲ達スルヲ得サルヲ以テナリ乃チ第四十六號ヲ以テ布告セラル

同月丙第八號第九號ヲ以テ横濱、神戸、新潟、函館、金澤、名古屋、熊谷、松本、松山、廣島、水戸、松江、弘前、靜岡、高知、熊本、福島、鹿兒島、ノ十八裁判所ニ檢事ヲ置ク旨ヲ達ス
同月丙第十號ヲ以テ勳七等以上非役ノ者賭博罪ヲ犯スルハ總テ士族ニ準シテ處分スベキ旨ヲ達ス

同月丁第四號ヲ以テ清國駐留領事并朝鮮駐留管理官へ委任セラレタル裁判權限中民事ノ訴訟ハ金額ノ多少ニ拘ハラズ直ニ之ヲ裁判スベシト改正セラレタルノ制旨ヲ奉シタル旨ヲ達ス

同月丁第六號ヲ以テ司法卿ヨリ大審院諸裁判所各檢事へノ達書中是迄其事件ニ據リ大審院諸裁判所各檢事ト各自ニ記載セシ處自今專ラ判事ニノミ關シ或ハ檢事ノミニ關スル事件ト雖モ都テ大審院又ハ裁判所ト記スル旨ヲ達ス

同年六月丁第七號ヲ以テ裁判上諸役所ノ帳簿入用ノ節ハ可成必要ノ分寫取各役所ノ印ヲ捺シ爲差出紙丁多數ヲ要スルトキハ其費用仕拂フベキ旨ヲ達ス

同月今般第四十六號達ヲ以テ無等判任官以下席次ヲ定メラル、ト雖モ無位判事補檢事補ハ右達ノ例外トシ從前ノ如ク俸給ノ多寡ニ拘ハラズ任日ノ前

後ヲ以テ席次ヲ定メシト上申シ同月裁可ヲ得タリ
 同月金澤裁判所管内越前國敦賀若狹國一圓京都裁判所ノ管轄ニ屬セラレン
 コトヲ上申ス是レ實際ノ便宜ヲ謀リテナリ乃チ第三十九號ヲ以テ布告セラ
 ル
 同月家宅搜索ハ治罪法第三百三十三條ニ制限アリト雖モ芝居人寄席飲食店湯
 屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ニ拘ハラヌ家宅ヲ搜索センコトヲ上申
 ス蓋シ右ノ類ニモ一般ニ同條ノ制限ヲ及ホスモハ犯人法網ヲ脱スルノ虞ナ
 シトセサルヲ以テナリ乃チ第四十六號ヲ以テ布告セラル
 同月被告人責付規則ヲ上申ス是レ治罪法第二百十九條ニ被告人ヲ其親屬又
 ハ故舊ニ責付スルコトヲ得トアルノミニシテ其手續ヲ定メサルヲ以テナリ乃
 チ第四十七號ヲ以テ布告セラル
 同月司法官吏巡査及ヒ兵員ヲ要求又ハ使用スル手續ヲ上申ス是レ治罪法中
 司法官吏ニ於テ其職務ヲ行フニ當リ巡査及ヒ兵卒等ヲ要求又ハ使用スヘキ
 ノ規則ナキヲ以テ實際上障礙少ナカラサレハナリ乃チ第八十二號ヲ以テ達
 セラル
 同月刑法第三條第二項ニ從ヒ新舊法比較方法ヲ上申ス是レ新法舊法ノ刑期

及ヒ罰金科料ノ如キ渾テ其組織ヲ異ニスルヲ以テ新舊法ヲ比照スルニ方リ
 裁判官ニ於テ輕重ヲ定ムル能ハサルヲ以テナリ乃チ第八十一號ヲ以テ布告
 セラル

同年七月商船内犯罪取扱規則ヲ上申ス是レ治罪法第四十六條ニ商船内ノ犯
 罪ニ就テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアルヲ以テナリ
 乃チ第六十五號ヲ以テ布告セラル
 同月治罪法中無能力者民事擔當人法律ニ定メタル代人ト稱スル者ノ制限ヲ
 上申ス是レ別段ノ規則アラサルモハ新法實施ノ後實際支障尠カラサルヲ以
 テナリ乃チ第七十三號ヲ以テ布告セラル
 同月丁第八號ヲ以テ後備軍編入ノ者郷里ニ在テ罪ヲ犯シタルモハ檢事ヨリ
 裁判官ニ求刑スル前一應本人所轄ノ鎮臺或ハ營所ニ照會スヘキ旨ヲ達ス

裁判所管轄附廢置

本年度中支廳及ヒ區裁判所ノ廢設ナキヲ以テ之ヲ前年度ニ比照スルニ更ニ
 増減ナシ即チ本年度未現在ノ裁判廳ハ大審院一所上等裁判所四所地方裁判
 所二十三所同支廳四十五所區裁判所百七十所合セテ二百四十三所ナリ
 茲ニ本年度現在ノ廳名ヲ示スコト左ノ如シ

大 審 院

東京上等裁判所

大坂上等裁判所

宮城上等裁判所

長崎上等裁判所

東京、横濱、水戸、熊谷、名古屋、松本

新潟、八地方裁判所ヲ管ス

京都、大坂、神戸、金澤、松山、廣島、六地方裁判所ヲ管ス

弘前、仙臺、福島、函館、ノ四地方裁判所ヲ管ス

長崎、熊本、鹿兒島、ノ三地方裁判所ヲ管ス

地 方 裁 判 所

本 廳

支 廳

區 裁 判 所

東

京

千 葉

築 地

巴 町

富 士 見 町

二 長 町

林 町

千 葉

木 更 津

八 日 市 場

横 濱

小 田 原

八 王 子

水 戸

土 浦

下 妻

杣 木

宇 都 宮

熊 谷

大 宮

浦 和

前 橋

太 田

高 崎

谷

熊

戸

水

濱

横

<p style="text-align: center;"> 瀧 新 本 </p>														
相	長			高	新			長	上					
川	岡			田	發			野	田					
相	六	柏	長	糸	高	村	新	新	飯	長	岩	上	上	大
川	日	崎	岡	魚	田	上	發	瀧	山	野	村	田	諏	町
	町			川			田		山		田	田	訪	

<p style="text-align: center;"> 松 屋 古 名 </p>															
	岐					岡		安							
	阜					崎		濃							
	津														
飯	松	高	御	大	岐	豐	岡	上	四	山	安	一	熱	名	
田	本	山	嵩	垣	阜	橋	崎	野	日	田	濃	ノ	田	古	
									市		津	宮		屋	

神														坂														大													
姫路				塚										和歌山																											
御野	豊岡	飾磨	篠山	洲本	明石	兵庫	五條	奈良	堺	田邊	和歌山	天王寺	中ノ島	敦賀																											

都														京														岡														静													
彦根		大津		宮津												甲府		濱松																																					
彦根	小濱	大津	福知山	宮津	園部	伏見	京都	谷村	甲府	濱松	掛川	下田	沼津	静岡																																									

廣 島 松 知 高 山														
濱 田 島 取 隱 岐 杵 築 米 子 松 江 鷗 町 德 島 中 村 高 知 九 龜 高 松														
三	尾	廣	濱	島	隱	杵	米	松	鷗	德	中	高	九	高
次	道	島	田	取	岐	築	子	江	町	島	村	知	龜	松

松 澤 金 戶														
宇 和 島 富 山 福 井 七 尾 岡 山														
宇	大	西	松	魚	富	大	福	輪	七	小	金	津	玉	高
和	洲	条	山	津	山	野	井	島	尾	松	澤	山	島	梁
島														

函 島 福 臺														
		酒	米	山	若	平							盛	
		田	澤	形	松								岡	
福	函	酒	米	新	山	若	平	中	白	福	磐	宮	盛	古
山	館	田	澤	庄	形	松		村	川	島	井	古	岡	川

仙 前 弘 島														
		秋						山						
		田						口						
石	大	仙	能	本	大	秋	五	八	青	弘	赤	萩	岩	山
卷	河	臺	代	庄	曲	田	所	戶	森	前	間	國	國	口
	原						河				關			
							原							

鹿兒島						熊本						
宮崎			中津			大分						
都城	延岡	宮崎	大島	水引	鹿兒島	中津	豆田	竹田	佐伯	大分	八代	山鹿

熊崎			長						館					
			嚴原		福岡		佐賀							
人吉	町山口	熊本	嚴原	小倉	久留米	福岡	唐津	佐賀	島原	福江	平戸	長崎	壽都	江刺

職員附雇外國人

年度未即十四年六月三十日司法部内現在ノ職員ヲ以テ前年度未ノ現員ニ本比較スルヲ左ノ如シ

官職	人員	
	十三年六月三十日ヨリ	増減
卿輔	二	
書記官	八	
司法属	二二六	三六
判事	二五九	七五
判事補	六八四	六八
檢事	六三	四四
檢事補	七四	三七
大審院属	一七四	二三
裁判所	五三二	二六
出仕		
任判		

等外出仕	御用掛并雇	合計
一四七四	七五七	四、二三四
四七	一八	三七四
		三七一

右ノ外沖繩縣并ニ小笠原島在勤官吏ニシテ判事ヲ兼任スルモノ一人判事補ヲ兼任スルモノ九人アリ
 右職員ハ司法部内ノ總數ニ係ル猶次ノ各表ニ於テ本省及ヒ大審院各裁判所等ノ人員ヲ區別ス
 本年中本省局課ノ廢置ナシ唯十三年九月治罪法取調及ヒ辭書取調ノ二掛ヲ廢スルノミニシテ其他ノ局課ハ總テ舊ノ如シ乃チ十四年六月三十日本省現在ノ局課ハ四局七課ニシテ職員ノ數左ノ如シ

局課名	勅任		奏任		判任										等外雇		
	卿輔	書記官	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	十六等	十七等	一	二	三		
計																	
増																	
減																	

